

令和6年度

# ミドルリーダー研修の手引

(中堅教諭等資質向上研修)

小学校教諭・中学校教諭・高等学校教諭・  
中等教育学校教諭・特別支援学校教諭

徳島県教育委員会

# 目 次

I	ミドルリーダー研修（中堅教諭等資質向上研修）の概要	1
1	研修の目的	
2	受講対象者	
3	研修の内容等	
4	その他	
II	校外研修	2
1	校外研修の概要と日数	
2	研修講座の申込みと受講について	
III	校内研修	3
1	校内研修の概要と日数	
2	校外研修との関連	
3	研修の振り返り	
IV	模擬授業研修	6
1	模擬授業研修とは	
2	模擬授業研修実施教科等について	
3	模擬授業研修の事前準備	
4	模擬授業研修の実施	
5	模擬授業研修終了後	
V	研修の流れ	10
VI	とくしま教員育成指標	11
VII	ミドルリーダー研修で使用する様式の記入例について	15
	【様式(A)】とくしま教員育成指標に基づく自己評価票	
	【様式(B)】とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定	
	【様式(C)】ミドルリーダー研修（校外・校内）研修計画書	
	【様式(D)】ミドルリーダー研修事前評価票	
	ミドルリーダー研修事前評価票・研修計画書送付状	
	【様式(E)】ミドルリーダー研修校外研修実施報告書	
	【様式(F)】ミドルリーダー研修校内研修実施報告書	
	【様式(G)】ミドルリーダー研修事後評価票	
	ミドルリーダー研修終了に係る報告書類送付状	
	【様式(H)】ミドルリーダー研修選択研修レポート	
	【様式(I)】ミドルリーダー研修模擬授業研修について（通知）	
	【様式(J)】欠席届	
	【様式(K)】ミドルリーダー研修受講延期願	

※ミドルリーダー研修に係る様式は

総合教育センターのWebサイト 教職員研修講座「提出書類のダウンロード」→「教職員研修の様式」→「ミドルリーダー研修様式」からダウンロードして使用することができます。

# I ミドルリーダー研修（中堅教諭等資質向上研修）の概要

## 1 研修の目的

ミドルリーダー研修（中堅教諭等資質向上研修）（以下「ミドルリーダー研修」とする）は、教育公務員特例法第24条の規定に基づき、個々の能力、適性等に応じて、教育活動その他の学校運営の中核的な役割を果たすことが期待される中堅教諭としての職務を遂行するうえで必要とされる資質・能力の向上を図るために実施する。

## 2 受講対象者

原則として、採用後10年目の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の教諭

## 3 研修の内容等

### (1) 内容

- ① 徳島県教育委員会は、ミドルリーダー研修受講者について、「とくしま教員育成指標」を踏まえて体系的にミドルリーダー研修を実施する。
- ② ミドルリーダー研修の研修の柱は次のとおりである。
  - ア 「素養」の育成を図る研修
  - イ 「授業力・学習指導」に関する研修
  - ウ 「担任力・生徒指導」に関する研修
  - エ 「特別な配慮・支援」「特別支援の充実」に関する研修
  - オ 「ICTの利活用」に関する研修

### (2) 研修の日数

研修の日数は、次のとおりである。

校外研修	校内研修
4. 5日間	9日間

### (3) 実施上の留意事項

- ① 校長は、受講者の校務分掌等について、軽減を図るように努めるものとする。
- ② 校長は、本研修が実効性のあるものとなるよう、計画的な学校運営に努めなければならない。
- ③ ミドルリーダー研修は、原則として当該年度中に終了するものとする。

## 4 その他

### (1) 受講者の決定等について

- ① 事情により、当該教諭の研修受講年度を次年度以降とすることについては、受講予定者本人、校長及び市町村教育委員会教育長の意見を参考に徳島県教育委員会が判断する。
- ② 国立学校等の場合は、校長から直接徳島県教育委員会に所定の手続きをするものとする。

### (2) 校外研修における欠席について

- ① やむを得ず欠席（遅刻・早退）する場合は、あらかじめ管理職員（緊急の場合は本人）が、ミドルリーダー研修担当に連絡する。教職員研修課長により欠席が承諾された場合、管理職員は、総合教育センターWebサイト又は本冊子に掲載しているミドルリーダー研修の【様式(J)】「欠席届」を、速やかにメールに添付して提出する。
- ② 欠席日数が多い場合には、徳島県教育委員会内に置く判定委員会の審議を経て、再受講を課すことがある。

## Ⅱ 校外研修

### 1 校外研修の概要と日数

4. 5日間の校外研修は、次の(1)～(3)からなる。

校外研修の日程については、別紙の「校外研修日程一覧表」に示す。

#### (1) 共通研修（1. 5日間）

全ての受講者を対象に、次の日程・内容で行う。

- ・ 共通研修(1) 4月 4日(木) 会場：総合教育センター（1日）

（研修内容）○開講式、教育長訓話

○講義「ミドルリーダーに必要な資質・能力」

○講義「教職員の服務・規律」

○講義「いじめの“未然防止”及び“早期発見・対応”に向けて」

○講義「徳島型メンター制度について」

○オリエンテーション

- ・ 共通研修(2) 12月26日(木) 会場：総合教育センター（午後0. 5日）

（研修内容）○教育実践に関する共同研究会

○講義「カリキュラム・マネジメントについて」

○閉講式

12月26日(木)の共通研修(2)については、改めて研修案内の文書は発送しない。

#### (2) 模擬授業研修（1日間）

教科等で設定された日（7月29日(月)～8月2日(金)、特別支援学校：9月6日(金)～19日(木)※詳細は別紙参照）から1日を選択し、受講者の所属校（会場校担当の所属校）で実施する。ただし、高等学校・特別支援学校は総合教育センターで実施する。研修にはフレッシュ研修Ⅱ受講者も参加し、授業に関する研究協議を行う。 [p 6「Ⅳ 模擬授業研修」参照]

#### (3) 選択研修（2日間）

次の①～④より2日間選択することとする。①、②のうち0. 5日の研修を受講する場合は、2つ受講する、もしくは、0. 5日の研修1つとそれに関するレポート【様式(H)】の提出で、1日の研修とする。

##### ① 徳島県教育委員会が主催する研修等

別紙「校外研修日程一覧表」、「大学・研究機関等研修予定表」、「独自研修予定表」等により研修日を確認し、各自で選択して受講する。

##### ② 総合教育センター以外で行われる研究大会等（個別申請を要する研修）

別紙「校外研修日程一覧表」の「個別申請が必要な研修」は、各校から主催者に直接申し込む。

##### ③ 放送大学の講座

放送大学の講座を本年度の4月から12月の期間に受講する者については、講座1科目についてのみ選択研修の1日間の受講として認める。その場合は、【様式(C)】「ミドルリーダー研修（校外・校内）研修計画書」に、その科目名（講座名）を記入して、ミドルリーダー研修担当者に申請する。なお、放送大学の講座を受講後、履修証明書のコピーを、【様式(E)】「ミドルリーダー研修校外研修実施報告書」と併せて提出すること。

履修証明書のコピー 令和7年2月21日(金)

##### ④ 鳴門教育大学・四国大学「小学校英語の専門人材育成プログラム」（小学校教諭のみ）

2年間のプログラムを、令和5年度もしくは令和6年度から受講する者につき、選択研修の1日間の受講として認める。その場合は、【様式(C)】「ミドルリーダー研修（校外・校内）研修計画書」に、「鳴教大・四国大(英語)プログラム」と記入して、ミドルリーダー研修担当者に申請する。なお、単

位取得証明書のコピーを、【様式(E)】「ミドルリーダー研修校外研修実施報告書」と併せて提出すること。  
単位取得証明書のコピー 令和7年2月21日(金)

## 2 研修講座の申込みと受講について

- (1) 別紙「校外研修日程一覧表」等により研修日を確認し、【様式(C)】「ミドルリーダー研修(校外・校内)研修計画書」を作成する。
- (2) 校外研修は、5月7日(火)～17日(金)の間に、各自で「全国教員研修プラットフォーム:Plant(プラント)」(以下、「Plant」という。)から申し込む(研修講座一覧 p 31を参照)。その際、選択研修だけでなく、共通研修(2)、模擬授業研修についても申込みをすること。
- (3) 申し込んだ講座について、6月3日(月)午前10時以降に、「Plant」で受講可否を確認する。ただし、推薦研修や特別研修、個別申請を要する研修は、各校でとりまとめて報告することになっているので、受講希望がある場合には、各校の管理職員に早い時期に相談すること。

研修の申込みシステムが新しくなることに伴い、申込み方法や受講可否の確認方法については、総合教育センターのWebサイト内「教職員研修講座」に掲載する。最新の情報を確認して手続きを行うこと。

- (4) 【様式(E)】「ミドルリーダー研修校外研修実施報告書」は、共通研修(1)で配付した用紙に、受講が確定した講座名を各自記入する。
- (5) 【様式(E)】「ミドルリーダー研修校外研修実施報告書」は、各研修講座当日の受付時に研修講座担当者に提出し、終了時に受け取ること。なお、「個別申請を要する研修」等、担当者不在の講座については、受講後、所属校の校長のチェックを受けること。
- (6) 各講座の実施要項については送付しない。「Plant」で実施要項を必ず確認(特に、開始時刻、昼食、準備物、駐車場、受付場所等)して、研修に臨む。なお、実施要項の内容が変更になる場合があるため、研修の実施日の数日前に、必ず最新の実施要項を確認すること。
- (7) やむを得ず欠席(遅刻・早退)する場合は、あらかじめ管理職員(緊急の場合は本人)が、ミドルリーダー研修担当に連絡する。教職員研修課長により欠席が承諾された場合、管理職員は、総合教育センターWebサイト又は本冊子に掲載しているミドルリーダー研修の【様式(J)】「欠席届」を、速やかにメールに添付して提出する。送付は、学校代表メールアドレスもしくは管理職員のメールアドレスから行うようにする。

### 【送付先】総合教育センター教職員研修課

メールアドレス: kyoushokuinkenshuu@g.tokushima-ec.ed.jp

※県立学校に関しては、学習系パソコン(外部メール)から送付する。

## Ⅲ 校内研修

### 1 校内研修の概要と日数

9日間の校内研修は、次の(1)～(4)からなる。

校内研修においては、3時間の研修で1日間と数える。3時間を連続して設定しなくてもよい。

#### (1) とくしま教員育成指標に基づく自己評価の実施及び研修計画の立案(1日間)

受講者は【様式(A)】「とくしま教員育成指標に基づく自己評価票」、【様式(B)】「とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定」(【「徳島型メンター制度」を活用した研修案】まで)、【様式(C)】「ミドルリーダー研修(校外・校内)研修計画書」を作成して校長に提出し、校長の承認を受ける。

**【管理職員による研修計画の承認等と書類の提出】**

- ① 校長は、受講者に期待することや本人の目標達成につながるかどうかを判断して、【様式(C)】「ミドルリーダー研修（校外・校内）研修計画書」を承認する。
- ② 受講者の提出した【様式(A)】「とくしま教員育成指標に基づく自己評価票」、【様式(B)】「とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定」や、日頃の勤務状況等を勘案して、【様式(D)】「ミドルリーダー研修事前評価票」及び「ミドルリーダー研修事前評価票・研修計画書送付状」を作成する。
- ③ 【様式(C)】、【様式(D)】を各1部提出する。

【国立・県立学校】提出先：県教育委員会 教職員課

提出期限：令和6年5月23日（木）

【市町村立学校】提出先：市町村教育委員会

提出期限：令和6年5月23日（木）

**(2) 模擬授業研修に関するマネジメント（1日間）**

〔p 6「IV 模擬授業研修」参照〕

教科等で設定された日に実施する模擬授業研修に関連して、担当指導主事や模擬授業研修の班員、フレッシュ研修Ⅱ受講者との連絡調整を行い、マネジメント実践の機会とする。

**(3) 教科等の指導に関する研修（3日間）**

- ① 3日間の構成は、教材研究及び学習指導案作成（2日間）＋研究授業及び研究協議（1日間）とする。
- ② 研究授業は「模擬授業研修」で扱った単元（題材）を必ず行うものとする。研究授業は、模擬授業研修終了後（原則として9月～12月）に実施し、研究授業終了後は指導案を修正して、総合教育センターのミドルリーダー研修担当にメールで提出する。〔p 6「IV 模擬授業研修」参照〕
- ③ 小学校は、各教科、道徳科、外国語活動及び特別活動の指導に関する研修を行う。
- ④ 中学校は、専門教科の指導に関する研修、もしくは道徳科又は特別活動の指導に関する研修を行う。
- ⑤ 高等学校は、専門教科の指導に関する研修を行う。
- ⑥ 特別支援学校は、各学校の教育課程に応じた教科等の指導に関する研修を行う。
- ⑦ 留意点

ア 特別支援学級担任の場合は、上記の③及び④の規定と関係なく、各学校が実施する特別の教育課程に応じた教科等の指導に関する研修を行う。

イ 校長、副校長及び教頭等は教材研究及び学習指導案作成において、適宜、指導助言を行うとともに、研究授業を参観・評価し、指導助言を行う。

ウ 学校訪問、各教科等研究会で行う研究授業を充てることは原則としてできない。ただし、管理職員等（管理職員に代わり、主幹教諭、指導教諭、学部長も可）がその全てを参観し、その後の授業研究会で指導助言を行えば研究授業と兼ねることができる。

**(4) 特定課題研究（「徳島型メンター制度」を活用した若手教員育成の取組）（4日間）**

学校組織マネジメントについて理解し、校長等の指導及び助言を受けて主体的に研修を計画・実践し、ミドルリーダーとして求められる資質・能力の向上を図る。

**① 特定課題研究テーマの設定**

特定課題研究として「徳島型メンター制度」を活用した若手教員の育成に取り組み、報告を行う。

受講者は、【様式(B)】「とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定」の【自己分析に基づく本年度の目標】や、若手教員のニーズを踏まえた【「徳島型メンター制度」を活用した研修案】を校長に提示する。校長は、提示された研修内容について受講者と協議し、特定課題研究のテーマを承認する。

※「徳島型メンター制度」については、「研修講座一覧『とくしま教職員研修』」に示す『徳島型メンター制度』について～チームで育てる教師力～等を参照。

**【「徳島型メンター制度」を活用した研修案】**

「徳島型メンター制度」を活用するにあたり、若手教員等のニーズと、求められる資質・能力を勘案して研修内容を設定する。

「とくしま教員育成指標」を参照して、該当ステージで求められる「素養」、「授業力・学習指導」、「担任力・生徒指導」、「特別な配慮・支援」「特別な支援の充実」、「ICTの利活用」等について、学校の実態と照らし合わせ、具体的な内容や実施時期を構想する。

## ② 特定課題研究の進め方

[p 17 「様式 (C) 記入例」 参照]

- ・ 特定課題研究の計画作成
- ・ 「徳島型メンター制度」による研修の準備、実践
- ・ 特定課題研究報告書の作成
- ・ 特定課題研究発表、協議

受講者は、研究状況の中間報告を行い、研究の実践・報告に関して、校長、副校長及び教頭等から指導助言を受ける。

## ③ 留意点

ア 管理職員は、各校で実施している「徳島型メンター制度」において、ミドルリーダー研修受講者が若手教員と交流できる機会や、ベテラン教員によるサポート体制を設ける等、校内の協力体制を整備し、ミドルリーダー研修の受講者がメンターの役割を果たすことができるよう配慮すること。なお、職員構成により「徳島型メンター制度」の実施が困難な場合は、管理職員からミドルリーダー研修担当まで連絡をすること。

イ 校内研修等の機会に特定課題研究発表を行い、研修の実施方法や扱った内容、成果と課題等について、研修成果を全職員で共有する。その折に、校長、副校長及び教頭等の指導助言を受け、次年度の学校の活性化に生かすようにする。

ウ 「特定課題研究報告書」は、各自 **A4用紙2ページ**（両面印刷で1枚）を、総合教育センターのミドルリーダー研修担当に紙媒体で提出する。また、発表会で使用したプレゼンテーションを報告書として提出することも可とする。その場合、スライドの総数は16枚とし、**A4用紙1ページにスライドを4枚印刷して4ページ**（両面印刷で2枚）で提出する。

エ 同一校に受講者が複数在籍している場合、共同して研究を行うことは構わないが、各自が独自の視点（授業づくり、ICTの活用、生徒指導・保護者対応等）をもって研究を行い、その成果を各自が取りまとめ、それぞれが提出すること。

提出期間：令和7年2月3日（月）～2月21日（金）

## 2 校外研修との関連

- (1) 校内研修全般にわたり、校外研修で習得した知識や経験を基に、校長、副校長及び教頭等の指導助言を得て、研修を行う。
- (2) 校外研修、校内研修ともに、「素養」、「授業力・学習指導」、「担任力・生徒指導」、「特別な配慮・支援」「特別支援の充実」、「ICTの利活用」が研修の柱であることを踏まえて、研修を行う。

## 3 研修の振り返り

4月に作成した【様式(A)】「とくしま教員育成指標に基づく自己評価票」、【様式(B)】「とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定」の【自己分析に基づく本年度の目標】に照らし合わせ、年度末に【本年度の振り返り】を行い、研修の成果と課題を記述する。

研修の成果を次年度からの教育実践にどう生かしていくか、本年度見えてきた課題を今後の教育実践においてどう解決していくかについて、次のキャリアステージに向けての取組を校長に提出し、校長の承認を受ける。

「特定課題研究報告書」、【様式(H)】「ミドルリーダー研修 選択研修レポート」、【様式(A)】「とくしま教員育成指標に基づく自己評価票」、【様式(B)】「とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定」は、校長の承認後、A4用紙に表裏両面印刷をして、総合教育センターのミドルリーダー研修担当に提出する。

提出期間：令和7年2月3日（月）～2月21日（金）

**【管理職員による報告書の確認等と書類の提出】**

- ① 校長は、【様式(E)】「ミドルリーダー研修校外研修実施報告書」、「履修証明書のコピー」（放送大学の講座を受講した場合）、「単位取得証明書のコピー」（鳴門教育大学・四国大学「小学校英語の専門人材育成プログラム」を受講した場合）の確認、「特定課題研究報告書」、【様式(H)】「ミドルリーダー研修選択研修レポート」（必要な場合）、【様式(A)】「とくしま教員育成指標に基づく自己評価票」、【様式(B)】「とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定」、【様式(F)】「ミドルリーダー研修校内研修実施報告書」を承認する。
- ② 校長は、受講者の1年間の取組の様子や提出書類等を踏まえ、【様式(G)】「ミドルリーダー研修事後評価票」及び「ミドルリーダー研修終了に係る報告書類送付状」を作成する。
- ③ 【様式(E)】、【様式(F)】、【様式(G)】、「履修証明書のコピー」（放送大学の講座を受講した場合）、「単位取得証明書のコピー」（鳴門教育大学・四国大学「小学校英語の専門人材育成プログラム」を受講した場合）を各1部提出する。

【国立・県立学校】提出先：県教育委員会 教職員課 提出期限：令和7年2月21日（金）

【市町村立学校】提出先：市町村教育委員会 提出期限：令和7年2月21日（金）

## IV 模擬授業研修

### 1 模擬授業研修とは

模擬授業研修は、ミドルリーダー研修受講者とフレッシュ研修Ⅱ受講者がともに行う研修である。授業力の向上を目指すとともに、ミドルリーダーとして若手教員育成の視点をもって授業実践、研究協議を行う。また、模擬授業研修実施に当たっての連絡調整、運営等を含めてマネジメント実践の場とする。

### 2 模擬授業研修実施教科等について

模擬授業研修は、次に示す教科等から選択して実施する。模擬授業研修で作成した指導案を基に、校内研修の「(3)教科等の指導に関する研修」で研究授業を行う（原則9月～12月に実施）。そのため、模擬授業研修で作成する指導案の単元（題材）は、所属校において実際に行う予定の単元（題材）の中から選ぶものとする。

【小 学 校】 各教科、道徳科、外国語活動、特別活動のうち1つを選択する。

【中 学 校】 専門教科など担当教科、道徳科、特別活動のうち1つを選択する。

※小・中学校の特別支援学級担任の場合は、授業担当教科、自立活動、各教科等を合わせた指導（日常生活の指導、生活単元学習、作業学習等）の中から選択できる。

【高 等 学 校】 専門教科など担当教科のうち1つを選択する。ただし、地理歴史科は世界史、日本史、地理から、公民科は現代社会、倫理、政治・経済から、理科は物理、化学、生物、地学から選択する。

【特別支援学校】 担当教科、自立活動、各教科等を合わせた指導（日常生活の指導、生活単元学習、作業学習等）、特別活動の中から1つを選択する。

### 3 模擬授業研修の事前準備

模擬授業研修に関する連絡調整も含む事前準備は、模擬授業研修に関するマネジメントとして校内研修計画に設定する。（1日間）

なお、模擬授業研修の案内文書は、ミドルリーダー研修担当から班長に6月初旬ごろ【様式(I)】で連絡するので、班員で連絡を取り合い、実施日、実施場所等について、必ず管理職員に報告したうえで出席すること。

#### (1) 班編制と役割分担、報告

班は1～4名程度で編成する。(ただし、受講者が多数の教科等はこの限りではない。)同一教科等の班が複数になる場合は、行事予定を確認して模擬授業研修日を調整しやすい組合せにする。班員数に応じて、役割分担を工夫する。

##### ○主な役割と分担例

**班 長**：模擬授業研修についての通知【様式(I)】「ミドルリーダー研修模擬授業研修について(通知)」の班員への転送、講師(模擬授業研修の指導助言を行う指導主事等)と班員との連絡調整、決定事項の伝達、研修の運営計画と当日の運営

**マッチング担当**：フレッシュ研修Ⅱ受講者の班長との連絡調整、研修当日の運営

**会場校担当**：研修当日の会場校を担当(学校長の承認を得て決定)、使用機器について班員との連絡調整、研修当日の機器準備及び会場設営

※会場が総合教育センターの場合は、使用機器等について、ミドルリーダー研修担当と連絡調整を行う。

**記録係**：研修協議記録を整理、提出、研修当日の運営

班員の連絡先を確認して、共通研修(1)で配付する報告用紙を総合教育センターのミドルリーダー研修担当に提出する。控えは班長が管理する。

**報告期限**：4月4日(木)

#### (2) 模擬授業研修の実施場所及び日程調整、報告

模擬授業研修は、小学校・中学校は原則として受講者の所属校(会場校担当の所属校)、高等学校・特別支援学校は総合教育センターで行う。小学校・中学校の会場校担当者は、所属長の使用許可を得て会場を決定する。班長は、班員・講師とそれぞれに連絡を取って、4月4日(木)の共通研修(1)で提示された模擬授業研修の候補日から、模擬授業研修の実施日を決定し、実施場所と併せてミドルリーダー研修担当に報告をする。

※受講者の所属校での実施が困難な場合は、ミドルリーダー研修担当まで連絡をする。

**報告期限**：4月12日(金)

模擬授業研修についても他の研修と同様に、各自で総合教育センターのWebサイト上の説明に従って申し込み、【様式(C)】「ミドルリーダー研修(校外・校内)研修計画書」と【様式(E)】「ミドルリーダー研修校外研修実施報告書」に記入する。

**申込期間**：5月7日(火)～5月17日(金)

#### (3) フレッシュ研修Ⅱ受講者との連絡、報告

フレッシュ研修Ⅱ班長からマッチング担当に連絡があるので、フレッシュ研修Ⅱの班の人数や今後の連絡先を確認する。期限までに連絡がない場合は、ミドルリーダー研修担当に報告する。

**確認期限**：5月17日(金)

##### 【フレッシュ研修Ⅱ実施日】

5月8日(水) 中、養      5月9日(木) 高、特      5月10日(金) 小、栄

※フレッシュ研修Ⅱ班長からの連絡は、上記の日以降にある。複数班がマッチングしている場合は、マッチング担当はそれぞれの班長と連絡を取り合う。

#### (4) 模擬授業研修の確認事項      確認期限(目安)：模擬授業研修案内文書受け取り後～6月21日(金)

班長は、模擬授業研修の実施に関して、次の①・②について講師と打合せを行い、班員に連絡する。

##### ① 学習指導案の様式

様式を講師に確認して、班員に伝える。

##### ② 準備物

原則として、模擬授業研修に必要な教科書、指導書、教材・教具等は、全て各自で準備する。研修会場で借用する場合は、会場校担当及び講師と相談する。

#### (5) 模擬授業研修の使用機器の確認

模擬授業で使用できる機器(パソコン、タブレット、プロジェクタ、実物投影機)等について、会場

校担当に確認する。個人のパソコン、タブレット、スマートフォン等を使用することはできるが、会場校でのネットワークへの接続の可否については、会場校担当と確認を行う。会場が総合教育センターの場合は、会場校担当が代表して、ミドルリーダー研修担当にメールで「使用機器報告書」を送付する。(様式は総合教育センターWebサイトからダウンロードする。)

#### (6) 模擬授業実施単位(題材)の報告とフレッシュ研修Ⅱ受講者の課題の受け取り

模擬授業研修では、事前にフレッシュ研修Ⅱ受講者に模擬授業の実施予定の単位(題材)を伝えて、簡単な授業構想等をして研修に参加してもらう。また、フレッシュ研修Ⅱ受講者から提出された課題は、研究協議を行う際の参考とする。

##### 【フレッシュ研修Ⅱ受講者との連絡】(マッチング担当)

① 班員は、模擬授業で実施予定の単位(題材)を、班のマッチング担当に報告する。

② マッチング担当は、班員の実施予定単位(題材)を、フレッシュ研修Ⅱ班長に送付する。

連絡期限：模擬授業研修日10日前

③ マッチング担当は、フレッシュ研修Ⅱ班長から送付されたフレッシュ研修Ⅱ受講者の課題を、ミドルリーダー研修の班員と講師に知らせる。

連絡期限：模擬授業研修日7日前

#### (7) 学習指導案、データ、資料等の提出

模擬授業研修では、ICT(1人1台端末等)を有効活用した授業づくりを意識する。各自、模擬授業研修の10日前までに、指導案、作成したプレゼンテーション等のデータや資料を直接講師に送付し、個別に指導案等について指導を受ける。

受講者は、学習指導案の加筆・修正等を行い、模擬授業研修当日には、修正した学習指導案とワークシート等を参加人数分(講師+ミドルリーダー研修班員+フレッシュ研修Ⅱ班員)用意する。

〈指導案送付に関するメールの件名及びファイル名〉

##### 「受講者番号(名札の校種と番号)\_指導案\_氏名\_教科等」

※講師のメールアドレスは、ミドルリーダー研修担当から班長に6月初旬ごろ連絡する。

※授業に使うプレゼンテーション等のデータは、模擬授業研修の3日前までに会場校担当にメールで送付する。会場校担当者は、当日使用する端末のデスクトップにデータを貼り付けておく。

※総合教育センターで模擬授業を行う場合は、各自、模擬授業研修の3日前までにミドルリーダー研修担当にメールで、プレゼンテーション等のデータを送付する。

#### (8) 事前打合せ

班長は、模擬授業研修当日の運営について講師と打合せを行う。また、事前に班員と当日の運営に関する役割分担や協議内容の共通理解を図り、円滑な運営を心がける。

### 4 模擬授業研修の実施

#### (1) 模擬授業研修当日の運営

受付は各研修会場で行う。

講師から簡単な日程の説明を受けた後は、ミドルリーダー研修受講者が運営を行う。研究協議の司会、記録等は交代で行うなど、班員数に応じて柔軟に対応する。

#### (2) 模擬授業の実施

ミドルリーダー研修受講者は、交代で模擬授業を行う。機器の設置や片付けは全員で行う。

#### (3) 研究協議の実施

それぞれの模擬授業について研究協議を行い、講師の指導助言を受ける。

研究協議の運営では、フレッシュ研修Ⅱ受講者が協議に積極的に参加できるような工夫をする。

分担して協議記録を行った場合は、記録担当者が協議記録をまとめ、ミドルリーダー研修担当にメールで提出する。報告の様式「模擬授業研修協議記録」は、総合教育センターのWebサイトからダウンロードして使用すること。

報告期限：10月4日(金)

午前7時の時点で、研修会場を含む地域に、特別警報、暴風警報又は大雪警報が発表中の場合は、その日の研修を中止する。中止になった場合は、講師と受講者で相談のうえ、別日に模擬授業・研究協議を実施する。対応については、班長が代表して講師及びミドルリーダー研修担当と連絡を取る。

## 5 模擬授業研修終了後

### (1) 研究授業の実施

各受講者は、模擬授業研修の協議における質疑や指導助言を基に、学習指導案を修正し、所属校で研究授業を行う。[ p 4 III-1-(3)-② 参照]

### (2) 学習指導案の提出

研究授業終了後1週間をめどに、**学習指導案2部**（そのうち1部は授業者の氏名や児童生徒の個人情報等を削除したもの）をミドルリーダー研修担当にメールで提出する。

最終提出日：12月25日（水）

※個人情報を削除した学習指導案を、総合教育センターカリキュラムサポートセンターでの閲覧用として保管するとともに、徳島県教育委員会Webサイト（徳島県GIGAスクールサポートサイト）に公開し、その一覧をWebサイトから検索できるようにすることを御了承ください。

#### ○学習指導案の送付先

総合教育センター 教職員研修課 **ミドルリーダー研修担当**

メール：middle\_1@mt.tokushima-ec.ed.jp

小文字のエル  数字の1

電話：088-672-5100

#### ○学習指導案送付に関するメールの件名及びファイル名（同一にする）

**「受講者番号(名札の校種と番号)\_最終指導案\_氏名\_教科等」**

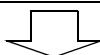
※学習指導案はPDF不可。編集できるもの（一太郎またはWordファイル）で送付すること。

※メール作成時に、「開封確認メールを要求」と設定する等により、送信先がメールを受信できたことを確認する。

## V 研修の流れ

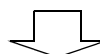
【4・5月】

とくしま教員育成指標に基づく自己評価の実施及び研修計画の立案 〈校内研修の1日間〉	
受講者	○自己評価の実施、研修計画の作成と校長への提出 【様式(A)】「とくしま教員育成指標に基づく自己評価票」 【様式(B)】「とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定」 ※【「徳島型メンター制度」を活用した研修案】までを記入 【様式(C)】「ミドルリーダー研修（校外・校内）研修計画書」
校長	○研修計画の承認等と書類の提出 【様式(C)】「ミドルリーダー研修（校外・校内）研修計画書」を承認 【様式(D)】「ミドルリーダー研修事前評価票」及び「ミドルリーダー研修事前評価票・研修計画書送付状」を作成 【提出先】国立・県立学校：県教育委員会 教職員課、市町村立学校：市町村教育委員会 【提出期限】令和6年5月23日(木)
市町村教委	○各校からの【様式(C)】、【様式(D)】を確認・承認して提出 【提出先】県教育委員会 教職員課 【提出期限】令和6年5月30日(木)
県教委	○各講座の受講者を決定 【決定期日】令和6年6月5日(水)



【6月・7月】

校外研修準備 〈校内研修の1日間〉	
受講者	○【様式(E)】「ミドルリーダー研修校外研修実施報告書」を作成 ○教科等で設定された日に実施する模擬授業研修に関するマネジメント



【主に6月～1月】

校外研修 〈総合教育センター等で4.5日間の研修〉	
◇共通研修 〈1.5日間：4月・12月〉 ◇模擬授業研修 〈1日間：7月～9月〉 ◇選択研修 〈2日間：6月～12月〉	
校内研修 〈校内で管理職員等の指導助言を受けて行う9日間の研修〉	
○教科等の指導に関する研修 〈3日間〉 ・教材研究及び学習指導案作成 〈2日間〉 + 研究授業及び研究協議 〈1日間〉	

【年度末】

研修成果の評価	
受講者	○研修の振り返り、研修報告書の作成と校長への提出 「特定課題研究報告書」、 【様式(A)】「とくしま教員育成指標に基づく自己評価票」 【様式(B)】「とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定」 【様式(E)】「ミドルリーダー研修校外研修実施報告書」、【様式(F)】「ミドルリーダー研修校内研修実施報告書」、「履修証明書のコピー」(放送大学を受講した場合)、「単位取得証明書のコピー」(鳴門教育大学・四国大学「小学校英語の専門人材育成プログラム」を受講した場合) 【様式(H)】「ミドルリーダー研修選択研修レポート」(必要な場合)
校長	○「特定課題研究報告書」、【様式(A)】、【様式(B)】、【様式(H)】「ミドルリーダー研修選択研修レポート」(必要な場合)の承認と提出 【提出先】総合教育センター教職員研修課 【提出期間】令和7年2月3日(月)～21日(金) ○研修報告書の確認等と書類の提出 【様式(E)】「ミドルリーダー研修校外研修実施報告書」の確認と報告 【様式(F)】「ミドルリーダー研修校内研修実施報告書」の確認と報告 【様式(G)】「ミドルリーダー研修事後評価票」及び「ミドルリーダー研修終了に係る報告書類送付状」 「履修証明書のコピー」(放送大学の講座を受講した場合)、「単位取得証明書のコピー」(鳴門教育大学・四国大学「小学校英語の専門人材育成プログラム」を受講した場合) 【提出先】国立・県立学校：県教育委員会 教職員課、市町村立学校：市町村教育委員会 【提出期限】令和7年2月21日(金)
市町村教委	○各校からの【様式(E)】、【様式(F)】、【様式(G)】、「履修証明書のコピー」(放送大学の講座を受講した場合)、「単位取得証明書のコピー」(鳴門教育大学・四国大学「小学校英語の専門人材育成プログラム」を受講した場合)を確認・承認して提出 【提出先】県教育委員会 教職員課 【提出期限】令和7年2月28日(金)
県教委	受講者の研究成果物等を公開し、教職員の今後の指導や研修に活用

※書類を郵送する際は、封筒に「ミドルリーダー研修〇〇在中」と朱書きすること。

## VI とくしま教員育成指標

## とくしま教員育成指標

令和5年度改訂

キャリアステージ		採用時に本県が求める力	＜第1ステージ＞		＜第2ステージ＞		＜第3ステージ＞	
			養成期	基盤形成期	伸長・充実期	深化・発展期	熟達期	
資質・能力	A 使命感・倫理観	○ 教育的愛情と熱意をもって教育活動に臨もうとしている。	○ 「とくしま」を愛し、徳島教育大綱に示されている「人財」の育成を目指し、使命感と情熱をもって、たくましく、粘り強く教育活動に取り組んでいる。	○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。				
	B 職業見学の学び続ける力	○ 社会人としての常識やマナー、道徳性(情報モラルを含む。)を身に付け、法令遵守の精神に基づいた行動をしている。	○ 教育公務員としての自覚をもち、法令やセキュリティポリシー等を遵守するとともに、誠実かつ公正に職責を遂行し、家庭や地域の信頼を得ている。	○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。				
	C 社会性・コミュニケーション力	○ 学び続ける意欲をもち、他者の意見を謙虚に受け止めている。	○ 知見を広げ、物事を的確に判断するとともに、主体的に研修に取り組んでいる。	○ 豊かな経験に裏打ちされた識見を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。				
	D 学校組織マネジメント力	○ コミュニケーションスキルを身に付け、他者と積極的に関わり、助け合っている。	○ 教職員、家庭や地域と幅広く関わり、自分の考えを適切に伝えながら、助け合っている。	○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。				
	E 連携・協働力	○ 自他を大切にし、人権感覚を身に付け、互いに尊重し合う人間関係を築いている。	○ 児童一人一人の抱えている悩みや願いを把握し、差別やいじめを許さない集団をつくるとともに、教育的愛情をもち、人権を尊重し、行動している。	○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。				
	F 危機管理能力	○ 組織の一員として、目標と自分の役割を理解し、協働して責任を果たそうとしている。	○ 学校の経営方針を理解し、報告・連絡・相談を適切に行いながら、日々の教育活動に協働して取り組んでいる。	○ グループの強みと弱みを分析したり、PDCAサイクルを活用したりしながら、組織を活性化させている。	○ グループリーダーとして、創意工夫や企画力を発揮し、他のグループとも連携・調整をしながら、組織を活性化させている。	○ 学校教育目標の達成に向け、「チーム学校」としての組織力が発揮できるよう率先して工夫改善に努め、学校全体の教育計画の作成に参画している。		
ICTの活用	特別な配慮・支援	授業力・学習指導	A カリキュラム・マネジメント力	○ 家庭や地域と連携する重要性を理解し、ボランティア活動や地域の行事等へ参加している。	○ 家庭や地域との連携・協働の意義を踏まえ、家庭や地域と積極的に関わり、協働活動に取り組んでいる。	○ 地域の教育資源(人材・施設・伝統行事等)についての情報を把握し、その活用を図っている。	○ 家庭や地域に働きかけ、教育活動を充実させるためのネットワークを形成している。	○ 地域における学校の役割を認識し、家庭や地域と協働する教育活動を推進している。
				○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の重要性を理解し、危険を察知したとき、状況に応じた行動をしている。	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の知識を身に付け、早期発見や想定外の事態への対応に努め、緊急時に自分の役割を果たしている。	○ 危機管理に対する意識を高め、危険を予測して行動するとともに、安心・安全に配慮した環境づくりをしている。	○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。	○ これまでの経験を生かし、地域と協働した創意工夫のある安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する取組を発信したり、危機管理体制づくりに参画したりしている。
				○ 学習指導要領の「目標」「内容」や系統等を理解している。	○ 学校教育目標を踏まえつつ、児童の実態に応じ、作成の意図を考えながら、学校のカリキュラムを活用している。	○ 学校教育目標を踏まえ、児童の実態や新たな教育課題に対応するため、目的や意図を明確にしたカリキュラムを提案している。	○ 学校教育目標を踏まえ、各学年間の系統や幼・小・中・高の接続を見通して、学校の特色を生かした創意工夫のあるカリキュラムを作成している。	○ 地域の実態や学校教育目標・学校の教育活動全体を踏まえながら、カリキュラムを見直し、組織的に改善したり調整したりしている。
				○ 児童の活動の姿や思考の流れを想定し、教材やICT等の効果的な活用場面等を考えながら、学習指導案を作成している。	○ 児童の心身の発達や学習過程に関して理解するとともに、児童の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、様々な教材やICT等の効果的な活用や評価方法を取り入れた授業を構想している。	○ 児童一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着のために、指導と評価の一体化を図り、教材等の開発やICT等の効果的な活用に取り組み、創意工夫のある授業を構想している。	○ 児童一人一人の学びの深まりを高め、ICT等の効果的な活用方法と学習評価の研究に努め、改善につながる助言をしている。	
				○ 基本的な指導技術を身に付け、児童の学習の様子を把握しながら授業を実践しようとしている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、発問・指示・説明・板書・児童とのやり取り・最新のICT等の指導技術を身に付け、活用している。	○ 最新の知見に基づき、新たに身に付けた指導技術、指導方法、評価方法を積極的に活用し、授業を展開するとともに、若手教員への助言・育成にあたっている。	○ 幅広い情報を基に、自分の指導技術、指導方法、評価方法を更新しつつ、新しい技術や方法を取り入れた範を積極的に示したり、学校全体の授業力向上に働きかけたりしている。	
				○ 児童の習得状況に応じた指導・支援の方法を理解している。	○ 児童の習得状況を目標に照らして評価し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための指導・支援をしている。	○ 学びの質や長期的な変容にも目を向け、ICT等を効果的に活用して一人一人の習得状況を的確に把握し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補充的・発展的な指導・支援をしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による質的な学習の深まりを把握し、意図的・計画的な指導・支援をしている。	
担任力・生徒指導	A 児童生徒理解・指導力	○ 授業を分析して改善する手立てを理解し、実践しようとしている。	○ 自分の授業を振り返り改善する習慣や、他の教職員の授業に学ぶ習慣が身に付いている。	○ 校内や都市の研究会等で研究授業を積極的に行うとともに、助言を受けて、自分の授業を客観的に評価し、授業改善につなげている。	○ 学校全体の授業改善に取り組む環境づくりに努め、教員の個性を生かす助言をしている。			
		○ 児童理解の意義や、児童の心身の発達過程・特徴について理解している。	○ 児童に向き合い、一人一人の人格を尊重し、共感的理解に努めて信頼関係を構築するとともに、社会的資質や行動力を高めるよう指導・支援をしている。	○ 児童の発達や個性等をより多面的に理解して信頼関係を構築し、長期的な視野をもって社会的資質や行動力を獲得できるよう意図的・計画的に指導・支援をするとともに、若手教員に助言をしている。	○ 児童を深く理解し、細やかな配慮をするとともに、全ての教職員で児童の理解や指導・支援の方針について共通理解を図る環境づくりをしている。			
		○ 担任の職務内容や集団づくりの意義を理解し、学級経営の基本的な指導方法を身に付けている。	○ 学級集団をはじめ、児童会やクラブ活動等の集団の経営方針を基に、それぞれ一貫性のある指導・支援をしている。	○ 異年齢集団等様々な集団活動について、よりよい集団に高め、集団相互の関わりを活性化させるとともに、若手教員に助言をしている。	○ 学校全体の集団づくりの取組を視野に入れ、活性化させるための具体的方策を提案している。			
		○ 学校生活の中で生じる様々な課題の発見と対応の方法について理解し、積極的に課題解決に取り組もうとしている。	○ 様々な課題に気付き、児童、保護者、他の教職員と相談しながら、的確に課題解決を図っている。	○ 課題の未然防止や迅速な発見に努め、必要に応じて専門家と連携しながら課題解決を図り、その様々な方策について、若手教員に助言をしている。	○ 学校が直面する様々な課題を把握し、組織的できめ細やかな指導・支援が行われるよう働きかけている。			
		○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の重要性を理解し、基本的な指導方法を身に付けている。	○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた学習の場を設定し、児童の自己有用感を高めつつ、自立した生活、社会の形成における自己の役割について理解できる素地を育てる指導をしている。	○ 発達段階に応じて、グローバルな視野と低・中・高学年のキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえ、異年齢集団を組織したり、他校種や家庭、地域、企業、関係機関等との連携を図ったりしながら、あらゆる教育活動を通じて指導・支援をしている。	○ 学校の教育活動全体を通じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた指導が充実するよう、助言をしている。			
		○ 特別支援教育の理念や動向、特別支援教育に関連する基礎的な用語や、個に応じた指導・支援の必要性を理解している。	○ 児童の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、他の教職員とともに本人・保護者のニーズを踏まえた個別的教育支援計画や個別の指導計画を立案して、個に応じた指導・支援に取り組んでいる。	○ 児童の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、合理的配慮の視点から校内での連絡・調整を行うなどして、学校生活全体を通じて個に応じた支援を行っている。	○ 個々の児童に対する合理的配慮の実施について助言したり、障がい者理解の促進について、家庭や地域への発信に努めたりしている。			
ICTを学習指導に活用する力	A	○ 関係する校務分掌(特別支援教育コーディネーター等)や、関係機関(医療・福祉・労働)のそれぞれの役割を理解している。	○ 保護者や特別支援教育コーディネーター、他の教職員と連携・協働しながら、指導・支援に取り組んだり、児童同士の相互理解が深まるような交流及び共同学習に取り組んだりしている。	○ 校内委員会等で情報共有を行ったり、外部の専門家や関係機関と連携したりして、ケース会議等を実施している。	○ インクルーシブ教育システム構築に向け、関係機関等と連携しながら、学校全体で児童を支援する体制の整備を推進している。			
		○ 学びに困難を抱える児童への配慮を理解し、基本的な指導・支援の方法を理解している。	○ 他の教職員と協働し、児童の学習上のつまずきに対する配慮や支援、教材づくりに積極的に取り組み、意欲的・主体的に学ぶ授業づくりを行っている。	○ アセスメントに基づき指導目標を明確化し、担任・担当間で積極的に授業改善を行うとともに、児童の得意な面を認めることにより、学習意欲の向上につなげる支援をしている。	○ 児童一人一人の実態に応じた目標設定、教材教具の工夫、指導方法、称賛・承認の方法等について、若手教員に助言している。			
		○ 将来の社会参加と自立の視点に基づき、発達障がい等の特性による生活上の困難や、問題行動への基本的な支援方法を理解している。	○ 児童が見通しをもって学校生活を過ごせるように、教室環境の整備や学級内ルールの明確化を図るとともに、コミュニケーションスキル向上等に関する指導を行っている。	○ 特別な配慮や支援を必要とする児童を含む全ての児童の望ましい行動を育てるために、ポジティブ行動支援の手法を用いて、課題の解決や問題の予防に取り組んでいる。	○ 個別支援や、ポジティブ行動支援の実践について、全教職員で指導の効果を確認し、児童の成長を共に喜び合う機会を計画的に設定している。			
		○ 児童の活動の姿や思考の流れを踏まえ、ICTの活用場面等を想定しながら、学習指導案を作成している。	○ 児童の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、ICTを積極的に取り入れた授業を構想している。	○ 児童一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着を図るため、学習内容に応じて、ICTを適切かつ効果的に活用した創意工夫のある授業を実践している。	○ これまでの実践や経験をもとに、単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高めるとともに、ICTの効果的な活用方法の研究に努め、授業改善につながる助言をしている。			
ICTを効率的な業務の遂行に活用する力	B	○ 学習指導に必要なアプリケーションや情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、積極的にICTを活用した指導を実践するとともに、蓄積した教育データを学習評価につなげている。	○ 最新の知見に基づき、ICTを効果的に活用した授業を実践するとともに、学びの質や長期的な変容に関する教育データを分析し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補充的・発展的な指導・支援をしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、必要とされる教育データの活用とICTスキルの向上についての研究に努め、助言をしている。			
		○ 学校業務に必要なアプリケーション操作や情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 所属する組織のセキュリティポリシーを理解し、学級事務、校務において、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスを活用している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの多くの機能を活用して効率的に業務を遂行している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの効率的な活用について教職員に提案している。			

キャリアステージ 資質・能力		採用時に本県が求める力	＜第1ステージ＞		＜第2ステージ＞		＜第3ステージ＞		
		養成期	基盤形成期		伸長・充実期	深化・発展期	熟達期		
A 使命感・倫理観	B 識見・学び続ける力	○ 教育的愛情と熱意をもって教育活動に臨もうとしている。	○ 「とくしま」を愛し、徳島教育大綱に示されている「人財」の育成を目指し、使命感と情熱をもって、たくましく、粘り強く教育活動に取り組んでいる。		○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。				
		○ 社会人としての常識やマナー、道徳性(情報モラルを含む。)を身に付け、法令遵守の精神に基づいた行動をしている。	○ 教育公務員としての自覚をもち、法令やセキュリティポリシー等を遵守するとともに、誠実かつ公正に職責を遂行し、家庭や地域の信頼を得ている。		○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。				
	C 社会性・コミュニケーション力	○ 学び続ける意欲をもち、他者の意見を謙虚に受け止めている。	○ 知見を広げ、物事を的確に判断するとともに、主体的に研修に取り組んでいる。		○ 豊かな経験に裏打ちされた識見を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。				
		○ コミュニケーションスキルを身に付け、他者と積極的に関わり、助け合っている。	○ 教職員、家庭や地域と幅広く関わり、自分の考えを適切に伝えながら、助け合っている。		○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。				
	D 学校組織マネジメント力	○ 自他を大切にし、人権感覚を身に付け、互いに尊重し合う人間関係を築いている。	○ 生徒一人一人の抱えている悩みや願いを把握し、差別やいじめを許さない集団をつくるとともに、教育的愛情をもち、人権を尊重し、行動している。		○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。				
		○ 組織の一員として、目標と自分の役割を理解し、協働して責任を果たそうとしている。	○ 学校の経営方針を理解し、報告・連絡・相談を適切に行いながら、日々の教育活動に協働して取り組んでいる。		○ グループの強みと弱みを分析したり、PDCAサイクルを活用したりしながら、組織を活性化させている。		○ 学校教育目標の達成に向け、「チーム学校」としての組織力が発揮できるよう、率先して工夫改善に努め、学校全体の教育計画の作成に参画している。		
E 連携・協働力	○ 家庭や地域と連携する重要性を理解し、ボランティア活動や地域の行事等へ参加している。	○ 家庭や地域との連携・協働の意義を踏まえ、家庭や地域と積極的に関わり、協働活動に取り組んでいる。		○ 地域教育資源(人材・施設・伝統行事等)についての情報を把握し、その活用を図っている。		○ 地域における学校の役割を認識し、家庭や地域と協働する教育活動を推進している。			
	○ 互いの課題や悩みを解決するため情報交換を積極的に行うとともに、先輩教員に相談したり助言を求めたりしている。	○ 互いの課題や学びの共有を図るとともに、若手教員の範となるよう努めている。		○ 校内研修を充実させるとともに、若手教員に助言をしている。		○ 人材育成の重要性を踏まえ、OJTを計画的・継続的に進め、支え合い、学び合う環境づくりをしている。			
F 危機管理能力	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の重要性を理解し、危険を察知したとき、状況に応じた行動をしている。	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の知識を身に付け、早期発見や想定外の事態への対応に努め、緊急時に自分の役割を果たしている。		○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。		○ これまでの経験を生かし、地域と協働した創意工夫のある安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する取組を発信したり、危機管理体制づくりに参画したりしている。			
素養	ICTの活用	特別な配慮・支援	授業力・学習指導	A カリキュラム・マネジメント力	○ 学習指導要領の「目標」「内容」や系統等を理解している。	○ 学校教育目標を踏まえつつ、生徒の実態に応じ、作成の意図を考えながら、学校のカリキュラムを活用している。	○ 学校教育目標を踏まえ、生徒の実態や新たな教育課題に対応するため、目的や意図を明確にしたカリキュラムを提案している。	○ 学校教育目標を踏まえ、各学年間の系統や幼・小・中・高の接続を見通して、学校の特色を生かした創意工夫のあるカリキュラムを作成している。	○ 地域の実態や学校教育目標・学校の教育活動全体を踏まえながら、カリキュラムを見直し、組織的に改善したり調整したりしている。
				B 授業構想力	○ 生徒の活動の姿や思考の流れを想定し、教材やICT等の効果的な活用場面等を考えながら、学習指導案を作成している。	○ 生徒の心身の発達や学習過程に関して理解するとともに、生徒の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、様々な教材やICT等の効果的な活用や評価方法を取り入れた授業を構想している。	○ 生徒一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着のために、指導と評価の一体化を図り、教材等の開発やICT等の効果的な活用に取り組み、創意工夫のある授業を構想している。	○ これまでの実践や経験を基に、単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高め、ICT等の効果的な活用方法と学習評価の研究に努め、改善につながる助言をしている。	
				C 授業実践力	○ 基本的な指導技術を身に付け、生徒の学習の様子を把握しながら授業を実践しようとしている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、発問・指示・説明・板書・生徒とのやり取り・最新のICT等の指導技術を身に付け、活用している。	○ 最新の知見に基づき、新たに身に付けた指導技術、指導方法、評価方法を積極的に活用し、授業を展開するとともに、若手教員への助言・育成にあたっている。	○ 幅広い情報を基に自分の指導技術、指導方法、評価方法を更新しつつ、新しい技術や方法を取り入れた範を積極的に示したり、学校全体の授業力向上を働きかけたりしている。	
				D 授業省察力・改善力	○ 生徒の習得状況に応じた指導・支援の方法を理解している。	○ 生徒の習得状況を目標に照らして評価し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための指導・支援をしている。	○ 学びの質や長期的な変容にも目を向け、ICT等を効果的に活用して一人一人の習得状況を的確に把握し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補充的・発展的な指導・支援をしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による質的な学習の深まりを把握し、意図的・計画的な指導・支援をしている。	
				A 児童生徒理解・指導力	○ 生徒理解の意義や、生徒の心身の発達の過程・特徴について理解している。	○ 生徒に向き合い、一人一人の人格を尊重し、共感的理解に努めて信頼関係を構築するとともに、社会的資質や行動力を高めるよう指導・支援をしている。	○ 生徒の発達や個性等をより多面的に理解して信頼関係を構築し、長期的な視野をもって社会的資質や行動力を獲得できるよう意図的・計画的に指導・支援をするとともに、若手教員に助言をしている。	○ 生徒を深く理解し、細やかな配慮をするとともに、全ての教職員で生徒の理解や指導・支援の方針について共通理解を図る環境づくりについて	
				B 集団づくり力	○ 担任の職務内容や集団づくりの意義を理解し、学級経営の基本的な指導方法を身に付けている。	○ 学級集団をはじめ、生徒会や部活動等の集団の経営方針を基に、それぞれ一貫性のある指導・支援をしている。	○ 異年齢集団等様々な集団活動について、よりよい集団に高め、集団相互の関わりを活性化させるとともに、若手教員に助言をしている。	○ 学校全体の集団づくりの取組を視野に入れ、活性化させるための具体的方策を提案している。	
				C 課題解決力	○ 学校生活の中で生じる様々な課題の発見と対応の方法について理解し、積極的に課題解決に取り組もうとしている。	○ 様々な課題に気づき、生徒、保護者、他の教職員と相談しながら、的確に課題解決を図っている。	○ 課題の未然防止や迅速な発見に努め、必要に応じて専門家と連携しながら課題解決を図り、その様々な方策について若手教員に助言をしている。	○ 学校が直面する様々な課題を把握し、組織的できめ細やかな指導・支援が行われるよう働きかけている。	
				D 未来ビジョン育成力	○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の重要性を理解し、基本的な指導方法を身に付けている。	○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた学習の場を設定し、一人一人の進路選択、自立した生活、社会の形成における自己の役割について理解できるよう指導し、自覚を促している。	○ 発達段階に応じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえ、学校種をこえた連携や、家庭、地域、企業、関係機関等との連携を図りながら、あらゆる教育活動を通じて指導・支援をしている。	○ 学校の教育活動全体を通じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた指導が充実するよう、助言をしている。	
			A 個に応じた指導・支援力	○ 特別支援教育の理念や動向、特別支援教育に関連する基礎的な用語や、個に応じた指導・支援の必要性を理解している。	○ 生徒の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、他の教職員とともに本人・保護者のニーズを踏まえた個別的教育支援計画や個別の指導計画を立案して、個に応じた指導・支援に取り組んでいる。	○ 生徒の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、合理的配慮の視点から校内での連絡・調整を行うなどして、学校生活全体を通じて個に応じた支援を行っている。	○ 個々の生徒に対する合理的配慮の実施について助言したり、障がい者理解の促進について、家庭や地域への発信に努めたりしている。		
				B チームによる実践	○ 関係する校務分掌(特別支援教育コーディネーター等)や、関係機関(医療・福祉・労働)のそれぞれの役割を理解している。	○ 保護者や特別支援教育コーディネーター、他の教職員と連携・協働しながら、指導・支援に取り組んだり、生徒同士の相互理解が深まるような交流及び共同学習に取り組んだりしている。	○ 校内委員会等で情報共有を行ったり、外部の専門家や関係機関と連携したりして、ケース会議等を実施している。	○ インクルーシブ教育システム構築に向け、関係機関等と連携しながら、学校全体で生徒を支援する体制の整備を推進している。	
				C 「わかった」「できた」を育む学習支援力	○ 学びに困難を抱える生徒への配慮を理解し、基本的な指導・支援の方法を理解している。	○ 他の教職員と協働し、生徒の学習上のつまづきに対する配慮や支援、教材づくりに積極的に取り組み、意欲的・主体的に学ぶ授業づくりを行っている。	○ アセスメントに基づき指導目標を明確化し、担任・担当間で積極的に授業改善を行うとともに、生徒の得意な面を認めることにより、学習意欲の向上につなげる支援をしている。	○ 生徒一人一人の実態に応じた目標設定、教材教具の工夫、指導方法、称賛・承認の方法等について、若手教員に助言している。	
				D 「わかった」「できた」を育む生活支援力	○ 将来の社会参加と自立の視点に基づき、発達障がい等の特性による生活上の困難や、問題行動への基本的な支援方法を理解している。	○ 生徒が見通しをもって学校生活を過ごせるように、教室環境の整備や学級内ルールの明確化を図るとともに、コミュニケーションスキル向上等に関する指導を行っている。	○ 特別な配慮や支援を必要とする生徒を含む全ての生徒の望ましい行動を育てるために、ポジティブ行動支援の手法を用いて、課題の解決や問題の予防に取り組んでいる。	○ 個別支援や、ポジティブ行動支援の実践について、全教職員で指導の効果を確認し、生徒の成長を共に喜ぶ機会を計画的に設定している。	
				A ICTを学習指導に活用する力	○ 生徒の活動の姿や思考の流れを踏まえ、ICTの活用場面等を想定しながら、学習指導案を作成している。	○ 生徒の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、ICTを積極的に取り入れた授業を構想している。	○ 生徒一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着を図るため、学習内容に応じて、ICTを適切かつ効果的に活用した創意工夫のある授業を実践している。	○ これまでの実践や経験をともに、単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高めるとともに、ICTの効果的な活用方法の研究に努め、授業改善につながる助言をしている。	
					○ 学習指導に必要なアプリケーションや情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、積極的にICTを活用した指導を実践するとともに、蓄積した教育データを学習評価につなげている。	○ 最新の知見に基づき、ICTを効果的に活用した授業を実践するとともに、学びの質や長期的な変容に関する教育データを分析し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補充的・発展的な指導・支援をしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、必要とされる教育データの活用とICTスキルの向上についての研究に努め、助言をしている。	
					B ICTを効率的な業務の遂行に活用する力	○ 学校業務に必要なアプリケーション操作や情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 所属する組織のセキュリティポリシーを理解し、学級事務、校務において、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスを利活用している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの多くの機能を活用して効率的に業務を遂行している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの効率的な利活用について教職員に提案している。

キャリアステージ			採用時に本県が求める力	＜第1ステージ＞	＜第2ステージ＞		＜第3ステージ＞	
資質・能力			養成期	基盤形成期	伸長・充実期	深化・発展期	熟達期	
A 使命感・倫理観	B 職業見学 学び続ける力	C 社会性・ コミュニケーション力	○ 教育的愛情と熱意をもって教育活動に臨もうとしている。	○ 「とくしま」を愛し、徳島教育大綱に示されている「人材」の育成を目指し、使命感と情熱をもって、たくましく、粘り強く教育活動に取り組んでいる。	○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。	○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。	○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。	
			○ 社会人としての常識やマナー、道徳性(情報モラルを含む。)を身に付け、法令遵守の精神に基づいた行動をしている。	○ 教育公務員としての自覚をもち、法令やセキュリティポリシー等を遵守するとともに、誠実かつ公正に職責を遂行し、家庭や地域の信頼を得ている。	○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。	○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。	○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。	
			○ 学び続ける意欲をもち、他者の意見を謙虚に受け止めている。	○ 知見を広げ、物事を的確に判断するとともに、主体的に研修に取り組んでいる。	○ 豊かな経験に裏打ちされた識見を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。	○ 豊かな経験に裏打ちされた識見を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。	○ 豊かな経験に裏打ちされた識見を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。	
			○ コミュニケーションスキルを身に付け、他者と積極的にに関わり、助け合っている。	○ 教職員、家庭や地域と幅広く関わり、自分の考えを適切に伝えながら、助け合っている。	○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。	○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。	○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。	
			○ 自他を大切に、人権感覚を身に付け、互いに尊重し合う人間関係を築いている。	○ 生徒一人一人の抱えている悩みや願いを把握し、差別やいじめを許さない集団をつくるとともに、教育的愛情をもち、人権を尊重し、行動している。	○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。	○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。	○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。	
			○ 組織の一員として、目標と自分の役割を理解し、協働して責任を果たそうとしている。	○ スクール・ミッションやスクール・ポリシーを理解し、業務についての報告・連絡・相談を適切に行いながら、日々の教育活動に協働して取り組んでいる。	○ グループの強みと弱みを分析したり、PDCAサイクルを活用したりしながら、組織を活性化させている。	○ グループリーダーとして、創意工夫や企画力を発揮し、他のグループとも連携・調整をしながら、組織を活性化させている。	○ 学校教育目標やスクール・ミッションの達成に向け、「チーム学校」としての組織力が発揮できるよう率先して工夫改善に努め、学校全体の教育計画の作成に参画している。	
D 学校組織 マネジメント力	E 連携・協働力	F 危機管理力	○ 校務分掌等の業務内容を理解し、計画的に職務遂行に努めている。	○ 校務分掌等の業務を、周囲の教職員と調整しながら遂行している。	○ 校務分掌等の業務の工夫改善を図るとともに、若手教員に助言をしている。	○ 校務分掌等の業務の工夫改善を図るとともに、若手教員に助言をしている。	○ 組織全体を俯瞰し、業務の効率化を推進している。	
			○ 家庭や地域との連携・協働の意義を踏まえ、家庭や地域と積極的に関わり、協働活動に取り組んでいる。	○ 地域の教育資源(人材・施設・伝統行事等)についての情報を把握し、その活用を図っている。	○ 家庭や地域に働きかけ、教育活動を充実させるためのネットワークを形成している。	○ 家庭や地域に働きかけ、教育活動を充実させるためのネットワークを形成している。	○ 地域における学校の役割を認識し、家庭や地域と協働する教育活動を推進している。	
			○ 互いの課題や悩みを解決するため情報交換を積極的に行うとともに、先輩教員に相談したり助言を求めたりしている。	○ 互いの課題や学びの共有を図るとともに、若手教員の範となるよう努めている。	○ 校内研修を充実させるとともに、若手教員に助言をしている。	○ 校内研修を充実させるとともに、若手教員に助言をしている。	○ 人材育成の重要性を踏まえ、OJTを計画的・継続的に進め、支え合い、学び合う環境づくりをしている。	
			○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の重要性を理解し、危険を察知したとき、状況に応じた行動をしている。	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の知識を身に付け、早期発見や想定外の事態への対応に努め、緊急時に自分の役割を果たしている。	○ 危機管理に対する意識を高め、危険を予測して行動するとともに、安心・安全に配慮した環境づくりをしている。	○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。	○ これまでの経験を生かし、地域と協働した創意工夫のある安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する取組を発信したり、危機管理体制づくりに参画したりしている。	
素養	ICTの活用	特別な配慮・支援	A カリキュラム・マネジメント力	○ 学習指導要領の「目標」「内容」や系統等を理解している。	○ 学校教育目標を踏まえつつ、生徒の実態に応じ、作成の意図を考えながら、学校のカリキュラムを活用している。	○ 学校教育目標を踏まえ、生徒の実態や新たな教育課題に対応するため、目的や意図を明確にしたカリキュラムを提案している。	○ 学校教育目標を踏まえ、各学年間の系統や幼・小・中・高の接続を見通して、学校の特色を生かした創意工夫のあるカリキュラムを作成している。	○ 地域の実態や学校教育目標・学校の教育活動全体を踏まえながら、カリキュラムを見直し、組織的に改善したり調整したりしている。
				○ 学力調査・学校評価等の結果を、日々の授業改善に結び付けている。	○ 学力調査・学校評価等の結果に基づき、学年や担当教科等の中心となって、長期的・継続的な改善策を提案し実践している。	○ 学力調査・学校評価等の結果に基づき、学校の課題を把握し、改善策を組織的に展開している。		
			B 授業構想力	○ 生徒の活動の姿や思考の流れを想定し、教材やICT等の効果的な活用場面等を分析しながら、学習指導案を作成している。	○ 生徒の心身の発達や学習過程に関して理解するとともに、生徒の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、様々な教材やICT等の効果的な活用や評価方法を取り入れた授業を構想している。	○ 生徒一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着のために、指導と評価の一体化を図り、教材等の開発やICT等の効果的な活用に取り組み、創意工夫のある授業を構想している。	○ これまでの実践や経験を基に、単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高め、ICT等の効果的な活用方法と学習評価の研究に努め、改善につながる助言をしている。	
				○ 基本的な指導技術を身に付け、生徒の学習の様子を把握しながら授業を実践しようとしている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、発問・指示・説明・板書・生徒とのやり取り・最新のICT等の指導技術を身に付け、活用している。	○ 最新の知見に基づき、新たに身に付けた指導技術、指導方法、評価方法を積極的に活用し、授業を展開するとともに、若手教員への助言・育成にあたっている。	○ 幅広い情報を基に自分の指導技術、指導方法や評価方法を更新しつつ、新しい技術や方法を取り入れた範を積極的に示したり、学校全体の授業力向上を働きかけたりしている。	
			C 授業実践力	○ 生徒の習得状況に応じた指導・支援の方法を理解している。	○ 生徒の習得状況を目標に照らして評価し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための指導・支援をしている。	○ 学びの質や長期的な変容にも目を向け、ICT等を効果的に活用して一人一人の習得状況を的確に把握し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補充的・発展的な指導・支援をしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による質的な学習の深まりを把握し、意図的・計画的な指導・支援をしている。	
				○ 授業を分析して改善する手立てを理解し、実践しようとしている。	○ 自分の授業を振り返り改善する習慣や、他の教職員の授業に学ぶ習慣が身に付いている。	○ 研究会等で研究授業を積極的に行うとともに、助言を受けて、自分の授業を客観的に評価し、授業改善につなげている。	○ 学校全体の授業改善に取り組む環境づくりに努め、教員の個性を生かす助言をしている。	
			D 授業省察力・改善力	○ 授業を分析して改善する手立てを理解し、実践しようとしている。	○ 授業を振り返り改善する習慣や、他の教職員の授業に学ぶ習慣が身に付いている。	○ 研究会等で研究授業を積極的に行うとともに、助言を受けて、自分の授業を客観的に評価し、授業改善につなげている。	○ 学校全体の授業改善に取り組む環境づくりに努め、教員の個性を生かす助言をしている。	
				○ 生徒理解の意義を理解し、生徒指導や教育相談等の基本的な方法を身に付けている。	○ 生徒に向き合い、一人一人の人格を尊重し、共感的理解に努めて信頼関係を構築するとともに、社会的資質や行動力を高めるよう指導・支援をしている。	○ 生徒の発達や個性等をより多面的に理解して信頼関係を構築し、長期的な視野をもって社会的資質や行動力を獲得できるよう意図的・計画的に指導・支援をするとともに、若手教員に助言をしている。	○ 生徒を深く理解し、細やかな配慮をするとともに、全ての教職員で生徒の理解や指導・支援の方針について共通理解を図る環境づくりをしている。	
		担任力・生徒指導	A 児童生徒理解・指導力	○ 担任の職務内容や集団づくりの意義を理解し、ホームルーム経営の基本的な指導方法を身に付けている。	○ ホームルームをはじめ、生徒会や部活動等の集団の経営方針を基に、それぞれ一貫性のある指導・支援をしている。	○ 様々な集団活動について、よりよい集団に高め、集団相互の関わりを活性化させるとともに、若手教員に助言をしている。	○ 学校全体の集団づくりの取組を視野に入れ、活性化させるための具体的方策を提案している。	
				○ 学校生活の中で生じる様々な課題の発見と対応の方法について理解し、積極的に課題解決に取り組もうとしている。	○ 様々な課題に気づき、生徒、保護者、他の教職員と相談しながら、的確に課題解決を図っている。	○ 課題の未然防止や迅速な発見に努め、必要に応じて専門家と連携しながら課題解決を図り、その様々な方策について若手教員に助言をしている。	○ 学校が直面する様々な課題を把握し、組織的できめ細やかな指導・支援が行われるよう働きかけしている。	
			B 集団づくり力	○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の重要性を理解し、基本的な指導方法を身に付けている。	○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた学習の場を設定し、生徒が勤労観・職業観を確立するとともに、自立した生活、社会における自己の役割についての認識を深め、社会を形成する一員として主体的に行動できるよう指導している。	○ 発達段階に応じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえ、社会的な自立に向けて、家庭、地域、企業、関係機関等との連携を図りながら、あらゆる教育活動を通じて指導・支援をしている。	○ グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点に基づいた指導が充実するよう助言するとともに、家庭、地域、企業、関係機関等と連携した指導・支援を推進している。	
				○ 特別支援教育の理念や動向、特別支援教育に関連する基礎的な用語や、個に応じた指導・支援の必要性を理解している。	○ 生徒の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、他の教職員とともに本人・保護者のニーズを踏まえた個別的教育支援計画や個別の指導計画を立案して、個に応じた指導・支援に取り組んでいる。	○ 生徒の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、合理的配慮の観点から校内での連絡・調整を行うなどして、学校生活全体を通じて個に応じた支援を行っている。	○ 個々の生徒に対する合理的配慮の実施について助言したり、障がい者理解の促進について、家庭や地域への発信に努めたりしている。	
			C チームによる実践	○ 関係する校内分掌(特別支援教育コーディネーター等)や、関係機関(医療・福祉・労働)のそれぞれの役割を理解している。	○ 保護者や特別支援教育コーディネーター、他の教職員と連携・協働しながら、指導・支援に取り組んでいる。	○ 校内委員会等で情報共有を行ったり、外部の専門家や関係機関と連携したりして、ケース会議等を実施している。	○ インクルーシブ教育システム構築に向け、関係機関等と連携しながら、学校全体で生徒を支援する体制の整備を推進している。	
				○ 学びに困難さを抱える生徒への配慮を理解し、基本的な指導・支援の方法を理解している。	○ 他の教職員と協働し、生徒の学習上のつまづきに対する配慮や支援、教材づくりに積極的に取り組み、意欲的・主体的に学ぶ授業づくりを行っている。	○ 個々の生徒への合理的配慮に基づき、板書やプリントの工夫、作業的な内容の取り入れ、学習環境の配慮等を実施し、成就感や達成感につなげる支援をしている。	○ 個々の生徒に対する学習指導上の合理的配慮の実施について、若手教員に助言している。	
			E 多様性に基づく学習支援力	○ 将来の社会参加と自立の視点に基づき、発達障がい等の特性による生活上の困難や、問題行動への基本的な支援方法を理解している。	○ 生徒が安心して生活できるように、教室環境の整備やホームルーム内ルールの明確化を図るとともに、コミュニケーションスキルの向上や感情のコントロール等に関する指導を行っている。	○ 特別な配慮や支援を必要とする生徒の二次的な問題は、周りの環境に起因していることを理解し、生徒の自尊感情に配慮しながら、早期に適切な対応を行っている。	○ 卒業後の自立と社会参加を目指した指導・支援の充実を図るため、社会生活や就労への適応力向上のための取組を組織的に展開している。	
				○ 生徒の活動の姿や思考の流れを踏まえ、ICTの活用場面等を想定しながら、学習指導案を作成している。	○ 生徒の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、ICTを積極的に取り入れた授業を構想している。	○ 生徒一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着を図るため、学習内容に応じて、ICTを適切かつ効果的に活用した創意工夫のある授業を実践している。	○ これまでの実践や経験をともに、単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高めるとともに、ICTの効果的な活用方法の研究に努め、授業改善につながる助言をしている。	
A ICTを学習指導に活用する力	○ 学習指導に必要なアプリケーションや情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、積極的にICTを活用した指導を実践するとともに、蓄積した教育データを学習評価等につなげている。	○ 最新の知見に基づき、ICTを効果的に活用した授業を実践するとともに、学びの質や長期的な変容に関する教育データを分析し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補充的・発展的な指導・支援をしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、必要とされる教育データの活用とICTスキルの向上についての研究に努め、助言をしている。				
	○ 学校業務に必要なアプリケーション操作や情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 所属する組織のセキュリティポリシーを理解し、学級事務、校務において、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスを利活用している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの多くの機能を活用して効率的に業務を遂行している。	○ セキュリティポリシーやその他のクラウドサービスの効率的な利活用について教職員に提案している。				

特別支援学校教諭

とくしま教員育成指標

令和5年度改訂

キャリアステージ				採用時に本県が求める力	＜第1ステージ＞	＜第2ステージ＞		＜第3ステージ＞	
資質・能力				養成期	基盤形成期	伸長・充実期	深化・発展期	熟達期	
素養	ICTの活用	特別支援の充実	授業力・学習指導	A 使命感・倫理観	○ 教育的愛情と熱意をもって教育活動に臨もうとしている。	○ 「とくしま」を愛し、徳島教育大綱に示されている「人材」の育成を目指し、使命感と情熱をもって、たくましく、粘り強く教育活動に取り組んでいる。	○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。	○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。	
				B 識見 学 び 続 け る 力	○ 学び続ける意欲をもち、他者の意見を謙虚に受け止めている。	○ 知見を広げ、物事を的確に判断するとともに、主体的に研修に取り組んでいる。	○ 豊かな経験に裏打ちされた識見を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。	○ 学校や地域の信頼に任せ、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。	
				C 社 会 性 ・ コミュニケーション力	○ コミュニケーションスキルを身に付け、他者と積極的に関わり、助け合っている。	○ 教職員、家庭や地域と幅広く関わり、自分の考えを適切に伝えながら、助け合っている。	○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。	○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。	
				D 学 校 組 織 マ ネ ジ メ ン ト 力	○ 組織の一員として、目標と自分の役割を理解し、協働して責任を果たそうとしている。	○ 学校の経営方針を理解し、報告・連絡・相談を適切に行いながら、日々の教育活動に協働して取り組んでいる。	○ グループの強みと弱みを分析したり、PDCAサイクルを活用したりしながら、組織を活性化させている。	○ グループリーダーとして、創意工夫や企画力を発揮し、他のグループとも連携・調整をしながら、組織を活性化させている。	
				E 連 携 ・ 協 働 力	○ 家庭や地域と連携する重要性を理解し、ボランティア活動や地域の行事等へ参加している。	○ 互いの課題や悩みを解決するため情報交換を積極的に行うとともに、先輩教員に相談したり助言を求めたりしている。	○ 互いの課題や学びの共有を図るとともに、若手教員の範となるよう努めている。	○ 校内研修を充実させるとともに、若手教員に助言をしている。	
				F 危 機 管 理 力	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の重要性を理解し、危険を察知したとき、状況に応じた行動をしている。	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の知識を身に付け、早期発見や想定外の事態への対応に努め、緊急時に自分の役割を果たしている。	○ 危機管理に対する意識を高め、危険を予測して行動するとともに、安心・安全に配慮した環境づくりをしている。	○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。	
			担任力・生徒指導	A カリキュラム・ マ ネ ジ メ ン ト 力	○ 教育要領・学習指導要領の「目標」「内容」や系統等を理解している。	○ 学校教育目標を踏まえつつ、幼児児童生徒の実態に応じ、作成の意図を考えながら、学校のカリキュラムを活用している。	○ 学校教育目標を踏まえ、幼児児童生徒の実態や新たな教育課題に対応するため、目的や意図を明確にしたカリキュラムを提案している。	○ 学校教育目標を踏まえ、各学年間の系統や幼・小・中・高の接続を見通して、学校の特徴を生かした創意工夫のあるカリキュラムを作成している。	○ 地域の実態や学校教育目標・学校の教育活動全体を踏まえながら、カリキュラムを見直し、組織的に改善したり調整したりしている。
				B 授 業 構 想 力	○ 幼児児童生徒の障がいや発達段階に適した授業イメージをもち、個や場面に応じた教材やICT等の効果的な活用場面等を考えながら、学習指導案を作成している。	○ アセスメントや客観的な根拠に基づいた幼児児童生徒の個別の指導計画や年間指導計画に沿って、ICT等の効果的な活用や評価方法を取り入れた日々の保育・授業（以下、授業と表記。）を構想している。	○ 幼児児童生徒一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着を図るために、指導と評価の一体化を図り、教材等の開発やICT等の効果的な活用に取り組み、創意工夫のある授業を構想している。	○ これまでの実践や経験を基に、単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高め、教材やICT等の効果的な活用方法と学習評価の研究に努め、改善につながる助言をしている。	
				C 授 業 実 践 力	○ 基本的な指導技術を身に付け、幼児児童生徒の学習の様子を把握しながら授業を実践しようとしている。	○ 各授業において目標設定や指導内容・方法を考え、個々の幼児児童生徒の実態に即した教材・教具の活用による適切な指導・支援をしている。	○ 学びの質や長期的な変容にも目を向け、幼児児童生徒一人一人の習得状況を把握するとともに、新しい指導技術・指導方法・評価方法を積極的に取り入れ、適切に補充的・発展的な指導・支援をしている。	○ 幅広い情報を基に自分の指導技術、指導方法、評価方法を更新しつつ、新しい技術や方法を取り入れた範を積極的に示したり、学校全体の授業力向上を働きかけたりしている。	
				D 授 業 省 察 力 ・ 改 善 力	○ 授業を分析して改善する手立てを理解し、実践しようとしている。	○ 授業の目標に沿った具体的な学習成果の記録や自己評価を行い、授業改善を行っている。	○ 担任と幼児児童生徒に関わる教員間で指導の効果を確認しながら授業改善を行うとともに、幼児児童生徒の得意な面を認めることにより、学習意欲の向上につなげる支援を行っている。	○ 様々な障がいのある幼児児童生徒の授業について、学校全体の授業改善に取り組む環境づくりに努め、教員の個性を生かす助言をしている。	
				A 幼 児 児 童 生 徒 力 理 解 ・ 指 導 力	○ 幼児児童生徒理解の意義や心身の発達の過程・特徴について理解している。	○ 幼児児童生徒に向き合い、一人一人の人格を尊重し、共感的理解に努めて信頼関係を構築するとともに、社会的資質や行動力を高めるよう指導・支援をしている。	○ 幼児児童生徒の発達や個性等をより多面的に理解して信頼関係を構築し、長期的な視野をもって社会的資質や行動力を獲得できるように意図的・計画的に指導・支援をするとともに、若手教員に助言をしている。	○ 幼児児童生徒を深く理解し、細やかな配慮をするとともに、全ての教職員で幼児児童生徒の理解や指導・支援の方針について共通理解を図る環境づくりをしている。	
				B 集 団 づ くり 力	○ 担任の職務内容や集団づくりの意義を理解し、学級経営の基本的な指導方法を身に付けている。	○ 一斉授業において、個別目標に対応した題材を設定したり、役割をもたせたりして、集団づくりの工夫を行っている。	○ 内容により学級、学年、学部で行うもの、他の学部と合同で行うもの等の集団構成を行い、幼児児童生徒同士のコミュニケーションを活発にし、自発的なコミュニケーションが増えるような集団づくりに積極的に取り組むとともに、若手教員に助言をしている。	○ 学校全体の集団づくりの取組を視野に入れ、活性化させるための具体的方策を提案している。	
				C 課 題 解 決 力	○ 学校生活の中で生じる様々な課題の発見と対応の方法について理解し、積極的に課題解決に取り組もうとしている。	○ 他の教職員や専門家のアドバイスを受けながら、特別支援教育の最新の知見に基づいた指導方法や指導技術を身に付けている。	○ 幼児児童生徒の望ましい行動を育てるために、ポジティブ行動支援の手法を用いて、課題の解決や問題の予防に取り組んでいる。	○ 学校が直面する様々な課題を把握し、その解決のために、個別的な支援や、ポジティブ行動支援の実践等、組織的できめ細やかな指導・支援を学校全体で取り組むように推進している。	
				D 未 来 ビ ジ ャ ン 育 成 力	○ 将来の社会参加と自立の視点に基づき、キャリア教育・消費者教育・主権者教育の重要性を理解し、基本的な指導方法を身に付けている。	○ 個別の教育支援計画や個別の指導計画にキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点からの目標を設定し、一人一人の社会的・職業的自立の目標達成に向け、日々の指導・支援をしている。	○ 発達段階に応じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえ、学校種をこえた連携や、家庭、地域、就労支援機関、企業、福祉施設、関係機関等との連携を図りながら、卒業後の社会的・職業的自立やQOLの向上を目指してあらゆる教育活動に取り組んでいる。	○ 学校の教育活動全体を通じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた指導や、卒業後の生活を見据えた指導・支援について、学校全体における取組を推進している。	
				E 目 標 の 明 確 化 ・ 実 態 把 握 力	○ 幼児児童生徒の実態把握の必要性を認識し、指導目標を明確にしようとしている。	○ 個々に応じたアセスメントにより、幼児児童生徒一人一人の障がい特性を知り、特に配慮を必要とする様々な状態を理解している。	○ 各種発達心理検査、一般職業適性検査結果の活用や、課題分析等の客観的な根拠に基づいた実態把握に取り組み、指導目標を明確にしている。	○ 障がい特性理解を深めるための効果的な研修の方策を理解し、教職員に研修を促したり、助言をしたりしている。	
				F チ ー ム に よ る 組 織 力	○ 学校生活の中で生じる様々な課題の発見と対応の方法について理解し、チームで協力して解決する必要性を理解している。	○ 医療的ケアを必要とする幼児児童生徒が安心・安全な学校生活を送るために、養護教諭や学校看護師と連携し、給食における指導や医療的ケア等に取り組んでいる。	○ 外部専門家のコンサルテーションを受けるなどして、問題行動をはじめとする個別の課題への対応や解決について、チームで積極的に取り組んでいる。	○ 学校が直面する様々な課題を把握し、その解決のために、組織的できめ細やかな指導・支援を関係機関や学校全体で1つのチームとして、取り組むように推進している。	
			G センターの機能の 推 進 力	○ 特別支援学校のセンター的機能の役割を理解している。	○ 自校におけるセンター的機能について、校内組織や活動内容を理解し、先輩教員とともに、地域の学校への理解・啓発に取り組んでいる。	○ 特別支援学校の有する自立活動の指導のノウハウ等を活かし、地域の園・小中高等学校等の特別な支援を必要とする幼児児童生徒に応じた適切な指導・支援について助言するとともに、関係機関との連携強化に取り組んでいる。	○ 特別支援教育における高い専門性を持つ後進の育成を推進するとともに、自校のセンター的機能が有効に発揮されるために、校内の組織体制の機能強化に取り組んでいる。		
				H 地 域 貢 献 力	○ 特別支援学校が取り組んでいる、家庭や地域、企業等と連携・協働した実践について知っている。	○ 家庭や地域との連携・協働の意義を踏まえ、家庭や地域と積極的に関わり、協働活動に取り組んでいる。	○ 地域の教育資源についての情報を把握し、「早期からのキャリア教育」「エンカール消費教育」「教福連携」「SDGs」等の取組において活用を図っている。	○ 近隣の地域や企業等と連携を進め、地域と一体化した「キャリア教育」に取り組んでいる。	
			A ICTを学習指導に 利 活 用 す る 力	○ 幼児児童生徒の活動の姿や思考の流れを踏まえ、ICTの活用場面等を想定しながら、学習指導案を作成している。	○ 幼児児童生徒の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、ICTを積極的に取り入れた授業を構想している。	○ 幼児児童生徒一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着を図るため、学習内容に応じて、ICTを適切かつ効果的に活用した創意工夫のある授業を他の教職員と協働し実践するとともに、様々な支援機器についての知識を高めている。	○ 単元・題材の開発や授業構想に関する専門性に加え、ICTの適切かつ効果的な実践・研究を生かした授業改善についての助言をしている。		
				○ 学習指導に必要なアプリケーションや情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、積極的にICTを活用した指導を実践し、一人一人の障がい特性、困難さ、支援のニーズに応じた利活用を行うとともに、蓄積した教育データを学習評価につなげている。	○ 最新の知見に基づき、ICTを効果的に活用した授業を実践するとともに、学びの質や長期的な変容に関する教育データを分析し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補充的・発展的な指導・支援をしたり、幼児児童生徒の成長や発達に応じて、きめ細やかに機器の調整を行ったりしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、必要とされる教育データの活用とICTスキルの向上についての研究に努めるとともに、一人一人に応じた利活用について助言をしている。		
			B ICTを効率的な 業 務 の 遂 行 に 活 用 す る 力	○ 学校業務に必要なアプリケーション操作や情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 所属する組織のセキュリティポリシーを理解し、学級事務、校務において、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスを利活用している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの多くの機能を活用して効率的に業務を遂行している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの効率的な利活用について教職員に提案している。		

## VII ミドルリーダー研修で使用する様式の記入例について

【様式(A)】

中 57

記入例

### とくしま教員育成指標に基づく自己評価票

研修名	ミドルリーダー研修	記入日	年	月	日
学校名		職・氏名			
担当教科・学年		校務分掌			
項目	具体的内容		該当するキャリアステージ		
素養	使命感・倫理観	使命感と情熱をもつとともに、教育公務員としての自覚をもち、家庭や地域の信頼を得るように努めている。	1	2	3
	識見・学び続ける力	学び続ける意欲をもち、知見を広げ、物事を的確に判断できるように、主体的に研修に取り組んでいる。	1	2	3
	社会性・コミュニケーション力		1	2	3
	学校組織マネジメント力	下の【自己評価方法】①により、2行程度に簡潔にまとめる。			
	連携・協働力				
	危機管理能力				
授業力・学習指導	カリキュラム・マネジメント力				
	授業構想力				
	授業実践力		1	2	3
	授業省察力・改善力		1	2	3
担任力・生徒指導	児童生徒理解・指導力	○特別支援学校教諭は、幼児児童生徒理解・指導力	1	2	3
	集団づくり力		1	2	3
	課題解決力	○高等学校教諭の「特別な配慮・支援」は、資質・能力が上から順に ・個に応じた指導・支援力 ・チームによる実践 ・多様性に基づく学習支援力 ・多様性に基づく生活支援力	1	2	3
	未来ビジョン育成力		1	2	3
特別な配慮・支援	個に応じた指導・支援力		1	2	3
	チームによる実践		1	2	3
	「わかった」「できた」を育む学習支援力	○特別支援学校教諭は、「特別支援の充実」となり、資質・能力が上から順に ・センター的機能の推進力 ・地域貢献力	1	2	3
	「わかった」「できた」を育む生活支援力		1	2	3
ICTの活用	ICTを学習指導に活用する力	書類作成時は、【高 様式(A)】、【特 様式(A)】をそれぞれダウンロードして使用すること。	1	2	3
	ICTを効果的な業務の遂行に活用する力		1	2	3
その他	特徴的な取組	養護教諭、生徒指導主事等と連携を密にとり、生徒の小さな変化にも気付き、対応できるよう心がけている。授業以外の場面で生徒がどのように活動しているか、常に意識している。			

#### 【自己評価方法】

- ①とくしま教員育成指標を参考に、各項目ごとに自分の現状を表すように整理して文章で記入する。
- ②「該当するキャリアステージ」は、現状で一番近いと思われるキャリアステージに○をつける。  
※ミドルリーダー研修は、第2ステージ(伸長・充実期)に該当する。
- ③特徴的な取組:日頃的教育活動で、自分が心がけている取組を具体的に記述する。
- ④年度末の振り返りの際、該当するキャリアステージに赤色で○をつける。

## 記入例

## とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定

学 校 名		職・氏名	
【自己分析】	記 入 日	年	月 日
<p>○よさ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周囲とのコミュニケーションを大切にしている。課題解決に向け、校内外と連携を密にしながら、前向きに取り組むことができる。</li> <li>・ 何事も工夫して取り組むことが得意である。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長期的な見通しをもって行動することが苦手であり、計画を早めに立てていく必要がある。</li> </ul>			
【自己分析に基づく本年度の目標】	<p>「徳島型メンター制度」の一員として、若手教員等のニーズと、求められる資質・能力を勘案して研修案を構想する。学校の実態、自己分析から見えてきた自分のよさを踏まえて記述する。</p>		
【特定課題研究テーマ】	「チーム〇〇！生徒理解と生徒指導」		
【「徳島型メンター制度」を活用した研修案】	<p>若手教員には、「生徒理解の方法を身に付けたい。」というニーズがあり、生徒とのコミュニケーションを大切にしてきた自分の経験から、生徒理解と生徒指導を柱にした研修を考えている。校内行事への関わり方など、一緒に準備を進めながらポイントを身に付けてもらいたい。</p>		
【本年度の振り返り】	5月はここまで記入する。	記 入 日	年 月 日
<p>本年度の目標の達成状況や、特定課題研究等の取組により、若手教員育成にどのように寄与することができたか等、本年度の取組の成果と課題について記入する。</p>			
【次のキャリアステージに向けて】			
<p>本年度の研修の成果を今後の教育活動にどのように生かしていくか、本年度の取組で見えてきた課題に今後どのように取り組んでいくか等、長期的な視点で記入する。</p> <p>具体的な方策を記入する。</p>			
<p>○取組を実現するための行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修に積極的に参加して、〇〇科の教材研究や授業づくりの力を伸ばす。</li> <li>・ 教職員間でコミュニケーションを取り、意識して若手の先生の悩みを聞くようにする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">※年度末の振り返りで最後まで記入して提出する。</p>			

## 【自己分析と目標設定の生かし方】

- ① 自己評価から見えてきた自分のよさや課題を踏まえて、本年度の目標を設定する。
- ② 学校の実態や自己評価をもとに、若手教員育成の視点で考えられる取組をあげる。
- ③ 年度末に、【様式(A)】の「該当するキャリアステージ」を見直したうえで目標に照らし合わせた振り返りと、次のキャリアステージに向けた取組を計画する。

※【様式(A)】、【様式(B)】は振り返りのために、コピーを個人でも保管すること。

## 【様式(Ｃ)】

小95

## 記入例

## ミドルリーダー研修（校外・校内）研修計画書

学 校 名		校長氏名	
受講者職・氏名		担当学年（教科）・校務分掌等	

## 校外研修計画

研修の種類	月	日	日 数	講座名等	場 所
共通研修	4	4	1 日	共通研修（１）	総教センター
	12	26	0.5 日	共通研修（２）	総教センター
模擬授業研修	△	○	1 日	小・中道德	〇〇中
選択研修	△	○	1 日	アサーション・トレーニング	総教センター
	△	○	1 日	徳島児童ホーム	徳島児童ホーム
	鳴教大・四国大 (英語)プログラム		1 日	令和６年度より受講	
合 計			5.5 日		

放送大学、鳴門教育大学・  
四国大学「小学校英語の専門  
人材育成プログラム」（小学  
校教諭のみ）を本年度受講す  
る場合のみ記入する。

## 校内研修計画

	期 日	日数等	研修内容	指導者
立案	4 月	2 時間	自己評価の実施及び研修計画の立案	校長
	5 月	1 時間	【特定課題研究】テーマの決定・年間計画	教頭・教務
模擬授業研修 に関するマネ ジメント	6 月	1 時間	模擬授業研修に関する各種手続き（日程等連絡調整）	教頭・教務
	7 月	1 時間	模擬授業実施単元（教材）について連絡調整	教頭・教務
	9 月	1 時間	模擬授業研修協議記録作成、校内での報告会等	校長
教科等の指導 に関する研修	6 月	1 日	〇〇科「単元(題材) 名」教材研究、学習指導案作成	教頭
	9 月	1 日	指導案の修正、授業準備	指導教諭
	1 1 月	1 日	〇〇科「単元(題材) 名」研究授業、研究協議	校長
特定課題研究	5 月	1 時間	【特定課題研究】テーマ 「チーム〇〇！ポジティブ行動支援にチャレンジ」 「徳島型メンター制度」の活用に関する打合せ（関係者）	校長・教頭
	6 月～ 1 0 月	6 時間 (準備も 含む)	・ポジティブ行動支援について、授業や生徒指導の場面で 目標を決めて取り組む（6～1 0 月） ※「チーム〇〇」ミーティング 第3木曜日 放課後 6 0 分×3 回を担当	教頭・教務 主幹教諭
	1 月	3 時間	【特定課題研究】報告書作成	校長
		2 時間	【特定課題研究】発表会、協議	
	合計		9 日	※累計3時間で1日とする。

## 記入例

ミドルリーダー研修事前評価票			
学 校 名		校長氏名	
受 講 者 職・氏名			
評価項目	5つの柱	資 質 ・ 能 力	
	素 養	学校組織マネジメント力 他の教職員と協働し教員集団の活性化を図ってほしい。	
	授業力・ 学習指導	授業実践力 子供たちがもっと知りたい学びたいと思う授業を展開してほしい。	
	担任力・ 生徒指導	集団づくり力 児童会活動の充実を図るよう、工夫改善を期待する。	
	特別な配慮・ 支援		
	I C T の 利活用	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 「とくしま教員育成指標」の5つの柱それぞれの資質・能力について、本年度重点を置いてほしい内容を1つ、具体的に記入する。 </div>	
校長所見	※受講者の研修計画等を踏まえ、学校組織の中で期待する役割について具体的に記述する。		

## ミドルリーダー研修事前評価票・研修計画書送付状

<p>_____教育委員会教育長 殿</p> <p>令和6年度「ミドルリーダー研修事前評価票」及び【様式(C)】「ミドルリーダー 研修(校外・校内)研修計画書」を送付します。</p> <p>_____年____月____日</p> <p style="text-align: right;">_____校長_____</p>
<p>徳島県教育委員会教育長 殿</p> <p>令和6年度「ミドルリーダー研修事前評価票」及び【様式(C)】「ミドルリーダー 研修(校外・校内)研修計画書」を承認しましたので、送付します。</p> <p>_____年____月____日</p> <p style="text-align: right;">_____教育委員会教育長_____</p>

## 【様式（E）】

小 95

## 記入例

## ミドルリーダー研修校外研修実施報告書

学 校 名			校 長 氏 名			
受講者職・氏名						

研修の種類	月	日	日 数	講座名等	場所	チェック
共通研修	4	4	1 日	共通研修（１）	総教センター	
	12	26	0.5 日	共通研修（２）	総教センター	
模擬授業研修	○	△	1 日	小・中道徳	〇〇小	
選択研修	<del>○</del>	<del>△</del>	<del>1 日</del>	<del>生徒指導研修 アサシオン・トレーニング</del>	<del>総教センター</del>	
	○	△	1 日	徳島児童ホーム	徳島児童ホーム	✓
	○	△	0.5 日	徳島県小学校人権教育研究大会（文科人研）	〇〇小	✓
			0.5 日	※人権教育に関するレポート提出		✓
				0.5日の研修はレポートを提出するか、0.5日の研修を2つ受講する。		
				個別申請を要する講座等は、受講後に所属校で校長に確認してもらう。		
					放送大学、鳴門教育大学・四国大学「小学校英語の専門人材育成プログラム」（小学校教員のみ）を本年度受講する場合のみ記入する。	
	鳴教大・四国大（英語）プログラム	1 日	令和6年度より受講			
合 計			5.5 日			

最終的に受講した日数を記入する。

## 【留意事項】

- ・選択研修は、受講した研修講座名を黒のボールペンで記入する。
- ・欠席により受講しなかった講座は二重線で消し、新しく受講した講座名を記入する。
- ・受付時に研修講座担当に提出し、終了時に受け取る。その際、研修講座担当者のチェックがあることを確認する。ただし、総合教育センター以外で実施される個別申請を要する講座等、担当不在の場合は、研修後、校長に報告をして確認を受けること。

【レポート提出先】 総合教育センター教職員研修課 ミドルリーダー研修担当

## 【研修講座の受講等に関する連絡先】

ミドルリーダー研修担当：総合教育センター 教職員研修課 電話番号088-672-5100

## ミドルリーダー研修校内研修実施報告書

学 校 名		受講者職・氏名	
-------	--	---------	--

	月	日	日数等	研修内容	指導者
立 案	4	11	2 時間	自己評価の実施及び研修計画の立案	校長
	5	9	1 時間	【特定課題研究のテーマ】の決定と研修計画立案	教頭
模擬授業に関するマネジメント	6	6	1 時間	模擬授業研修に関する各種手続き（日程等連絡調整）	教頭・教務
	7	4	1 時間	模擬授業実施単元について連絡調整	教頭・教務
	9	6	1 時間	模擬授業研修協議記録作成、校内での報告会等	校長
教科等の指導に関する研修	5	31	2 時間	〇〇科「単元(題材)名」教材研究、学習指導案作成	教頭
	6	7	1 時間	〇〇科「単元(題材)名」教材研究、学習指導案作成	教頭
	6	13	1 時間	指導案の修正、授業準備	指導教諭
	7	11	2 時間	指導案の修正、プレゼン作成	指導教諭
	10	31	1 時間	授業準備、指導案修正	教頭
	11	5	2 時間	〇〇科「単元(題材)名」研究授業、研究協議	校長
特定課題研究	5	10	1 時間	採用後3年目の教諭と打合せ（ニーズを探る）	教頭
	5	16	1 時間	「生徒理解のために大切にすること」準備	教頭
	5	23	1 時間	「生徒理解のために大切にすること」現状把握と対策	教頭
	6	6	1 時間	文化祭、モチベーションアップ作戦（計画の盛り上げ方）	学年主任
	7	12	1 時間	文化祭準備を一緒に行い、現状の把握	学年主任
	9	3	1 時間	文化祭、モチベーションアップ作戦（日々の生徒への声かけ）	学年主任
	9	5	1 時間	中間報告	校長
	9	19	1 時間	特定課題研究報告書作成	教頭
	1	17	2 時間	特定課題研究報告書作成	校長
	1	30	2 時間	特定課題研究発表会、協議	校長
合 計			9 日	※累計3時間で1日とする。	

実務を共にすることで、  
メンターとしての役割  
を果たす場合も含む。

上記の通り、ミドルリーダー研修校内研修を実施したことを報告します。

令和 年 月 日

校長

## ミドルリーダー研修事後評価票

学 校 名		校長氏名	
受 講 者 職・氏名	<div>事前評価票に記載したものを転記する。</div>		
評価項目	5つの柱	資 質 ・ 能 力	達成状況
	素 養	学校組織マネジメント力 他の教職員と協働し教員集団の活性化を図ってほしい。	3
	授業力・ 学習指導	授業実践力 子供たちがもっと知りたい学びたいと思う授業を展開してほしい。	2
	担任力・ 生徒指導	集団づくり力 児童会活動の充実を図るよう、工夫改善を期待する。	4
	特別な配慮・ 支援	<div>達成状況を4段階で評価する。 4 十分達成できた 3 概ね達成できた 2 やや課題が残る 1 努力を要する</div>	
	I C T の 利活用		
校長所見	※研修の取組状況や研究の成果が、次年度の学校運営に生かせるものであったか、 受講者の資質・能力がどのように向上したか等、今後の期待等も含めて簡潔に記 述する。		

## ミドルリーダー研修終了に係る報告書類送付状

_____教育委員会教育長 殿  令和6年度ミドルリーダー研修の終了にあたり、「ミドルリーダー研修事後評価票」、【様式(E)】 「ミドルリーダー研修校外研修実施報告書」及び【様式(F)】「ミドルリーダー研修校内研修実施報 告書」を送付します。  _____年____月____日  <div>_____校長_____</div>
徳島県教育委員会教育長 殿  令和6年度ミドルリーダー研修の終了にあたり、「ミドルリーダー研修事後評価票」、【様式(E)】 「ミドルリーダー研修・校外研修実施報告書」及び【様式(F)】「ミドルリーダー研修校内研修実施 報告書」を承認して、送付します。  _____年____月____日  <div>_____教育委員会教育長_____</div>

【様式（H）】

ミドルリーダー研修選択研修レポート

所 属		受講者氏名		受講者番号	
研修名					
1 研修の概要					
40字×15行					
2 校内での生かし方 (自校の状況に当てはめて実施可能なことや、すぐに実施が困難であれば、その対応などを記述する。)					
40字×15行					

※レポート1つにつき、0.5日分の受講とする。作成したレポートを管理職員に提出し、確認を受けること。

【様式（Ⅰ）】

ミドルリーダー研修模擬授業研修について（通知）

月・日	令和      年      月      日（      ）																						
送り先	校種等      （      ） （      ）学校      班長（      ）様																						
内 容	<p>模擬授業研修が次のとおり決定しました。教科等、実施日、実施場所、講師等を確認してください。</p> <p>研修の流れについては、「ミドルリーダー研修の手引 IV 模擬授業研修」を再度確認してください。また、班長は当日の日程の詳細について、実施要項を参考に、事前に講師と相談して決定し、班員に伝えてください。</p> <table border="1"> <tr> <td>教科等</td><td colspan="2"></td></tr> <tr> <td>実施日</td><td colspan="2"></td></tr> <tr> <td>実施場所</td><td colspan="2"></td></tr> <tr> <td rowspan="3">講 師</td><td>所 属</td><td></td></tr> <tr> <td>職</td><td></td></tr> <tr> <td>氏 名</td><td></td></tr> <tr> <td colspan="3">模擬授業学習指導案送付先・講師メールアドレス</td></tr> <tr> <td colspan="3"></td></tr> </table>	教科等			実施日			実施場所			講 師	所 属		職		氏 名		模擬授業学習指導案送付先・講師メールアドレス					
教科等																							
実施日																							
実施場所																							
講 師	所 属																						
	職																						
	氏 名																						
模擬授業学習指導案送付先・講師メールアドレス																							
送信者	徳島県立総合教育センター 教職員研修課 ミドルリーダー研修担当 メール：middle_1@mt.tokushima-ec.ed.jp																						
備 考																							

※班長は、本通知データを班員及び班員の所属校に速やかにメールで転送してください。

【様式（J）】

年 月 日

徳島県立総合教育センター所長 殿

学 校 名

校 長 氏 名

## 欠 席 届

次のとおり、本校職員が令和6年度ミドルリーダー研修を欠席しますのでお届けします。

1 職 氏 名

2 研修講座名

3 欠席する期間                      年    月    日    曜日から  
   年    月    日    曜日まで    (    ) 日間

4 欠席の理由

①やむを得ず欠席（遅刻・早退）する場合は、あらかじめ管理職員（緊急の場合は本人）が、ミドルリーダー研修担当(088-672-5100)に連絡してください。教職員研修課長により欠席が承諾された場合、管理職員は、速やかに欠席届をメールに添付して提出してください。送付は、学校代表メールアドレスもしくは管理職員のメールアドレスから行うようにしてください。

②メールの件名は、【欠席届】ミドルリーダー研修としてください。

【送付先】総合教育センター教職員研修課

メールアドレス：kyoushokuinkenshuu@g.tokushima-ec.ed.jp

※県立学校に関しては、学習系パソコン（外部メール）から送付する。

【様式（K）】

ミドルリーダー研修受講延期願	
学 校 名	
受 講 者 職・氏 名	
次年度以降の 受講を希望す る理由	以上の理由により、令和6年度受講から次年度以降の受講への変更を希望します。
<p>_____教育委員会教育長 殿</p> <p>上記の理由により、令和6年度の受講が困難と判断されますので、次年度以降に受講させてくださるようお願いします。</p> <p>_____年____月____日</p> <p>_____校長_____</p>	
<p>徳島県教育委員会教育長 殿</p> <p>_____長からの願のとおり、次年度以降に受講することが適当であると判断します。</p> <p>_____年____月____日</p> <p>_____教育委員会教育長_____</p>	
摘 要 欄	年度受講とする。

- ① 市町村立小学校長・中学校長・高等学校長は、市町村教育委員会へ提出する。
- ② 市町村教育委員会は、次年度以降の受講が適当と判断した場合は、承認のうえ、徳島県教育委員会教職員課へ提出する。
- ③ 国立・県立学校長は、徳島県教育委員会教職員課へ提出する。
- ④ 摘要欄は、徳島県教育委員会で記入する。

## 保存すべき文書等

各学校においては、研修の実績に基づいて文書等の整備及び保管に留意すること。

### (1) 保存すべき文書等

- ①【様式(A)】「とくしま教員育成指標に基づく自己評価票」の写し
- ②【様式(B)】「とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定」の写し
- ③【様式(C)】「ミドルリーダー研修（校外・校内）研修計画書」の写し
- ④【様式(D)】「ミドルリーダー研修事前評価票」及び「ミドルリーダー研修事前評価票・研修計画書送付状」の写し
- ⑤【様式(E)】「ミドルリーダー研修校外研修実施報告書」の写し
- ⑥【様式(F)】「ミドルリーダー研修校内研修実施報告書」の写し
- ⑦【様式(G)】「ミドルリーダー研修事後評価表」及び「ミドルリーダー研修終了に係る報告書類送付状」の写し
- ⑧「研究授業の学習指導案」
- ⑨「特定課題研究報告書」

### (2) 保存期間

5年間

※書類を郵送する際は、封筒に「ミドルリーダー研修〇〇在中」と朱書きすること。

令和6年度  
**ミドルリーダー研修の手引**  
(小・中・高・中等・特 教諭)

令和6年3月発行

編集発行 徳島県教育委員会

**徳島県教育委員会 連絡先**

〒770-8570 徳島市万代町1丁目1番地

教職員課人材育成担当 電 話 088-621-3123

ファクシミリ 088-621-2881

**徳島県立総合教育センター 連絡先**

〒779-0108 板野郡板野町犬伏字東谷1-7

教職員研修課 電 話 088-672-5100

ファクシミリ 088-672-6411

特別支援・相談課 電 話 088-602-7205

ファクシミリ 088-672-5229